

令和3年9月1日招集

茂原市議会定例会会議録（第2号）

議事日程（第2号）

令和3年9月8日（水）午前10時00分開議

第1 一般質問

- (1) 山田 広宣 議員
- (2) 高山 佳久 議員
- (3) 工藤 孝弘 議員
- (4) 横堀 喜一郎 議員
- (5) 河野 英美 議員

茂原市議会定例会会議録（第2号）

令和3年9月8日（水）午前10時00分 開議

○議長（中山和夫君） おはようございます。ただいまから本日の会議を開きます。
現在の出席議員は22名であります。したがって、定足数に達し会議は成立しました。

————— ☆ ————— ☆ —————

議 事 日 程

○議長（中山和夫君） 本日の議事日程は、お手元に配付してありますので、それにより御了承願います。

————— ☆ ————— ☆ —————

一 般 質 問

○議長（中山和夫君） それでは、これより議事日程に基づき、議事に入ります。
議事日程第1「一般質問」を行います。
今定例会の一般質問通告者は12人です。
本日は質問順位1番から5番までとします。
発言に入る前に申し上げます。質問者は質問内容を簡明に述べるとともに、答弁者はその内容を的確に把握し、明確な答弁をされますようお願いいたします。
なお、質問時間は、答弁を含め60分以内となっておりますので、御了承願います。
それでは、順次質問を許します。
最初に、山田広宣議員の一般質問を許します。山田広宣議員。

（14番 山田広宣君登壇）

○14番（山田広宣君） おはようございます。公明党の山田広宣でございます。
新型コロナウイルス感染症は、従来よりも感染力が強いデルタ株への置き換えにより新規感染者が急増するなど、収束の目途が立たない状況が続いております。コロナウイルスも変異を繰り返すなどして、まさに必死で生き残ろうとしております。
発症や重症化を防ぐのみならず、感染の予防にも高い効果を発揮するワクチン接種ではありますが、若い世代を含めて、これまで以上に早期かつ広く行き渡らせることが重要となっております。本市においても、大変な状況の中、日夜奮闘くださっている関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

そうした中、医療提供体制の逼迫により、入院できずにホテル療養や自宅療養する方も急増

し、茂原市内における自宅療養者は、一時期144名でありました。現時点で最新の情報によれば、9月2日現在の123名であります。県からの食料支援が遅れていて、「食べるものがなく、困っている」との声が我々に届いておりました。

先月、茂原市議会公明党として、新型コロナに関する4回目の要望書を田中市長に提出し、県や長生保健所（長生健康福祉センター）と連携した自宅療養者支援などを要望しました。市長はその場で担当者に指示を出すとともに、その後も、自身が県と連携してくださいました。このことは議会初日、諸般の報告で市長が自ら述べておりましたが、市民の命を心配した田中市長の迅速な行動の一部を垣間見ることができた思いであります。

我々も公明党のネットワークを使って、県議会議員や国会議員に実態を伝えたところ、全国からも同様の声が多く上がっておりました。その結果、8月25日に、厚生労働省は、都道府県が持つ自宅療養者の情報を市町村に提供し、両者が連携して自宅療養者への食事提供など、生活支援を要請するよう事務連絡を発出するに至っております。私どもとしても、今後の状況を引き続き注視してまいりたいと考えております。

それでは、通告に従い、質問させていただきます。

最初に、地域防災力の向上について、地域気象防災支援について伺います。近年、風水害や地震等の自然災害が各地で発生しておりますが、特に、地球温暖化の影響により、豪雨や熱波など、世界中で気象異常が頻発しております。WMO（世界気象機関）が8月31日に発表した報告書によれば、この50年間で干ばつや洪水などの気象災害は5倍に増え、200万人以上が死亡しているとのことであります。

8月9日には、IPCC（国連気候変動に関する政府間パネル）が温暖化の原因について、人間活動の影響が地球温暖化につながったことは疑う余地がないと初めて断定しております。これまでの報告では、人間の活動が地球温暖化に影響している可能性について、2001年に「高い」と表現して以降、「非常に高い」「極めて高い」として推移しておりましたが、断定までには至っておりませんでした。しかしながら、今回、断定に踏み切った背景には、産業革命以降、世界平均気温は19世紀後半から2000年の間に前例がない速度で上昇し、過去10万年で最も温暖であったことがあるようであります。産業革命前と比べた世界平均気温は現在1度上昇しておりますが、今世紀末頃には4.4度上昇する可能性があるともしております。

温室効果ガスによって宇宙空間に熱が放出されにくくなり、地球に籠もった余剰な熱の90%以上が海上に蓄えられることで、水蒸気の発生量が増え、台風の大型化や豪雨につながっていることも検証されているそうであります。このことから、2050年までに国内の温室効果ガス

排出を実質ゼロにするという政府方針、「カーボンニュートラル」は待ったなしの状況であります。

本年5月26日には改正地球温暖化対策推進法が成立し、また、2020年度第3次補正予算で、脱炭素に関する技術革命を促す2兆円の基金が盛り込まれましたが、一刻も早く実効的な取組を図る必要があります。日本は地理的条件から災害大国となっていることは必然とも言えますが、であればこそ、大雨や土砂災害に備えた政府や地方公共団体による適時・的確な防災対応が一層求められるものであります。

さきのWMO（世界気象機関）の報告書において、早期警戒、防災の進歩により、50年前に比べて死者数は3分の1に減少しているとしておりますが、我々としては、今できる防災・減災をさらに進めることが重要であると考えます。

そのような意味にも合致しますが、政府においては、本年3月、災害対策基本法の一部を改正し、避難勧告を廃止するなど、住民がとるべき行動につながる避難情報を変更しております。そこで、これまでの避難情報を変更するに至った背景と、新たな避難情報について伺います。また、新たな避難情報の周知と市民の意識を当局はどのように考えているのか伺います。

次に、終活について、終活サポートについて伺います。人生の終末に向けた活動、「終活」という造語をお聞きになっている方は多いかと思えます。元気なうちに本人の意思や不動産など財産の管理を共有しておくことが重要とされておりますが、現実には、何から始めたらいいのか分からないとの声を聞きます。

厚生労働省では、これまでACP（アドバンス・ケア・プランニング）として普及・啓発を進めておりましたが、より馴染みやすい言葉となるよう、現在では「人生会議」という愛称で呼んでおります。もしものとき、本人が望む医療やケアについて前もって考え、家族や医療・介護関係者と話し合い、共有する取組が、「もしものときのために人生会議」を推奨しております。

ある芸能人ががんを公表し、他界する前に、「死ぬときぐらい好きにさせてよ」という生前の新聞広告が話題になったこともありますが、残された時間を健やかな気持ちで過ごすため、残された家族のためにも大切な取組になるのではないのでしょうか。

本年7月1日、神奈川県大和市では、終活支援条例を全国で初めて制定しております。かつては家族や地域とのつながりがありましたが、近年は長寿化、核家族化が進展していることから支援が必要であるとして、これまで5年間をかけて、行政の立場から積極的な支援を行っております。高齢者の一人暮らし世帯を「おひとりさま」と呼び、市長発案の下、おひとりさま

支援政策を本格化させております。

まず、葬儀生前契約支援事業として、葬儀や納骨を執り行う市内葬祭事業者と生前契約を締結できるようにし、契約後は市役所が定期的に安否確認を実施しております。その後、「わたしの終活コンシェルジュ」を配置し、本年4月には、専門部署としておひとりさま政策課を設置するに至っております。おひとりさま政策が一時的なものではないという安心感を与えた効果もあってか、市民からの相談件数は増えているようであります。

終活は高齢者一人暮らし世帯だけでなく、高齢者の夫婦世帯や、ある程度の年齢に達した自分たちも決して他人事ではないかもしれません。

そこで、終活の必要性に対する当局の認識と、終活講座の実施を含めた市民に対する終活の取組について伺います。

以上で1回目の質問を終わります。

○議長（中山和夫君） ただいまの山田広宣議員の一般質問に対し、当局の答弁を求めます。

市長 田中豊彦君。

（市長 田中豊彦君登壇）

○市長（田中豊彦君） 山田広宣議員の一般質問にお答えさせていただきます。

私からは、まず地域防災力の向上についての中で、災害対策基本法改正によりまして、避難情報を変更するに至った背景と新たな避難情報についての御質問でございますが、避難情報の変更につきましては、警戒レベル3の避難準備・高齢者等避難開始は名称が長く、高齢者等に避難を求める情報であることが伝わりにくいことから、早期の避難を促すターゲットを明確にするため、名称を高齢者等避難に見直ししております。

また、警戒レベル4の避難勧告は、避難せず被災する人が多数発生したことや、警戒レベル4の避難勧告と避難指示の意味の違いが正しく理解されておらず、分かりにくかったことから、避難のタイミングを明確にするため、避難指示へ一本化し、住民がとるべき行動として、危険な場所から全員避難としております。

さらに、警戒レベル5の災害発生情報は、とるべき行動が分かりにくく、有効に機能していないことなどから、災害が発生または切迫し、警戒レベル4での避難が安全にできない場合に、自宅や近隣の建物で緊急的に安全を確保するよう促す情報を「緊急安全確保」と位置づけ、住民がとるべき行動として、直ちに安全を確保することとしております。改正によりまして、大分分かりやすくなってきたのかなと思っております。

次に、新たな避難情報の周知と市民意識についての御質問でございますが、新たな避難情報

の周知につきましては、本市では、広報もばらや自治会回覧、市公式ウェブサイトに掲載するとともに、各福祉センター等にはポスターを掲示し、周知を図っております。また、国でもウェブサイトへの掲載、駅などの指定公共機関等にポスター掲示、さらに、テレビやラジオでも頻繁に放送されるなど、様々な方法で周知を図っていることから、市民意識は高くなっているものと考えております。引き続き周知を重ね、防災意識向上に努めてまいりたいと思っております。

私からは以上でございます。

○議長（中山和夫君） 福祉部長 斎藤洋士君。

（福祉部長 斎藤洋士君登壇）

○福祉部長（斎藤洋士君） 福祉部所管に関わります御質問に御答弁申し上げます。

終活についての中で、その必要性に対する認識についての御質問ですが、終活とは、自分の死と向き合い、人生の最期を迎えるための準備を行うことで、本格的な高齢化社会の進展や、配偶者や家族を持たない高齢者が増える中、書籍の出版などにより広まったものでございます。

死との向き合い方は人それぞれだと思われませんが、終活は自分を見つめ、人生の終わりに向けて前向きに準備することから、今後の人生をよりよくすることにつながると思われ、大事なことであると考えております。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

（市民部長 田中正人君登壇）

○市民部長（田中正人君） 市民部所管に関わります終活講座の実施を含めた市民に対する終活の取組について御答弁申し上げます。

終活講座につきましては、消費生活ミニ講座として、相続、遺言、エンディングノートなどをテーマに、これまで4回実施しております。令和2年度に4日間の終活講座を実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止いたしました。今後、改めて終活講座を実施し、啓発に努めてまいります。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 再質問ありますか。山田広宣議員。

○14番（山田広宣君） では、最初の地域防災力の向上についてから再質問させていただきますが、土砂災害警戒区域の指定追加に伴いまして、今年度中に改定される予定のハザードマップでも新しい避難情報が掲載されるかと思いますが、変更された避難情報が市民の行動に結びつくまで繰り返し周知することが必要かと考えます。個々人の防災意識向上を図ることが災害予防の推進、防災力強化につながっていくと思われしますので、当局には様々な手段を使った繰

り返しの周知をお願いしておきます。

では、質問に移りますけども、新たな警戒レベル4、避難指示では、危険な場所から全員避難としております。間もなく本格的な台風シーズンを迎えますが、コロナ禍で避難所収容人数が制限されるなど、対象避難者を全員受け入れることが難しくなっている今、2階や高層階にとどまることで安全確保できる住民に対して、どのような行動を促しているのか伺います。

○議長（中山和夫君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） 9月1日号の広報もばらにも掲載しておりますが、安全が確保できるのであれば、浸水しても水が引くまで水・食料などの備えが十分にある場合は、自宅にとどまることも可能としております。

また、先ほど御指摘いただきました周知につきましては、今後も引き続き周知に努め、防災意識の向上を図ってまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 山田広宣議員。

○14番（山田広宣君） どこまで市民が理解しているかということも念頭に置きながら、今お答えいただいたとおり、避難情報と併せてぜひ周知をお願いしたいと思えます。

本年5月20日より、全国一斉に新しい避難情報を使用しておりますが、本市における新たな避難情報の発令実績と、避難所開設箇所や避難者数について伺います。

○議長（中山和夫君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） 7月3日の大雨時に、土砂災害警戒区域を対象に避難指示を発令し、3箇所の避難所を開設、避難者数はピーク時に4世帯5人で行いました。また、8月の台風10号による大雨でも、土砂災害警戒区域を対象に避難指示を発令し、5箇所の避難所を開設、避難者数はピーク時に2世帯3人で行いました。以上です。

○議長（中山和夫君） 山田広宣議員。

○14番（山田広宣君） 表現を変更したにもかかわらず、2回合計でピーク時6世帯8人の避難ということでありましたが、危機感の捉え方にまだ課題があるのか、あるいは新型コロナの感染を心配してなのか分かりませんが、今後も検証が必要かもしれません。

市民の行動はちょっと別といたしまして、当局としては、これまでの避難指示発令はうまくいったのかどうか、評価について伺います。

○議長（中山和夫君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） 避難指示発令につきましては、土砂災害警戒情報の発表を受け、速やかに発令したことから、適切に行えたものと考えております。

○議長（中山和夫君） 山田広宣議員。

○14番（山田広宣君） 今、答弁ありました避難指示が適切であったとしたら、いかに実際の行動に結びつけられるかが今後の課題になろうかと思えます。

ところで、私自身、2回とも避難助に駆けつけましたが、大雨・洪水警報と土砂災害警戒情報の違いが分からず避難してこられた方がおられました。御本人の聞き間違いもあるかもしれませんが、非常時に情報を正確に伝える難しさを改めて実感したところでございます。

では、市民に対する避難情報発令にあたって、本市では株式会社ウェザーニューズや気象庁、地元銚子地方気象台などの気象情報を活用しております。これまで見てきた中で、ウェザーニューズ社と気象庁の予報は必ずしも一致していない場合もありましたが、ウェザーニューズ社と気象庁の特徴や本市での情報の使い分け、活用方法について伺います。

○議長（中山和夫君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） ウェザーニューズ社は、本市及び一宮川流域に特化した情報であり、一方、気象庁は広い範囲での情報となっております。本市では、ウェザーニューズ社の情報を基に、気象庁から発表される情報等を勘案し、体制判断に活用しておるところでございます。

○議長（中山和夫君） 山田広宣議員。

○14番（山田広宣君） 分かりました。大雨による被害といたしましては、主に大雨洪水と土砂災害がありますが、まず、大雨洪水に関する発令において、判断ツールですか基準、判断方法について伺います。

○議長（中山和夫君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） 大雨洪水に関する避難の発令につきましては、気象庁などからの警報発表や雨量情報を基に、一宮川の水位上昇や降雨予測により、市長が総合的に判断をしております。

○議長（中山和夫君） 山田広宣議員。

○14番（山田広宣君） では、土砂災害に関する発令について、同様に判断ツールと基準、判断方法について伺います。

○議長（中山和夫君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） 土砂災害に関する避難の発令につきましては、気象庁からの土砂災害を対象とする大雨警報や土砂災害警戒情報を基に、土壌雨量指数の上昇や降雨予測により、市長が総合的に判断をしております。

○議長（中山和夫君） 山田広宣議員。

○14番（山田広宣君） 総合的な判断であると理解をさせていただきます。

ただ、本市でも、過去の大雨で避難情報を発令した際に、言い方がいいのかどうか、ちょっと適正かどうか分かりませんが、空振りをした経験がないわけではありませんし、全国の自治体も雨量予想や情報処理能力を駆使した発令に苦慮しているかと思われまます。災害予防という観点から、避難指示発令の空振りを恐れる必要は全くありませんが、あまりにも空振りが多いと、信頼性に影響を与えるのも事実であります。

人間は本来、非常事態であったとしても、脳の防御作用、いわゆる正常性バイアスによって、自分は大丈夫だと思い込んでしまう脳の危険なメカニズムが指摘されておりますので、情報精度はできるだけ高いことが理想であります。そのためにも、気象庁は地域防災支援の取組を通しまして、地域防災力の強化を推進しております。

その一例として、地域交流人材配置による担当チームを气象台に編成し、担当地域を固定することにより、各市町村固有の課題への対応を含め、市町村に寄り添い、担当者同士の緊密な連携関係を構築する取組を推進しております。平常時には気象防災ワークショップなどの開催や防災気象情報の地域ごとの活用についての共有などが行われ、災害時には早い段階から住民に見通しを伝えるとともに、ホットラインによる首長への助言なども行うとしております。そこで、本市と銚子地方气象台との連携状況について伺います。

○議長（中山和夫君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） 銚子地方气象台との連携状況につきましては、大雨警報などを発表する前の事前通知、また、詳細な気象予測をホットライン等により確認をしております。さらに、緊急を要する場合には、市長へ銚子地方气象台長から直接連絡が入ることとなっており、連携の強化に努めているところでございます。

○議長（中山和夫君） 山田広宣議員。

○14番（山田広宣君） 承知しました。市民のために活用できるものはぜひ最大限に活用していただきたいと考えます。

防災気象情報の発信精度の向上も気象庁等々がやっております。それも必要であります。受け手である市町村においても、気象災害情報の専門家を育成しておくことが大切になっていくものと考えております。内閣府や消防庁等においては、地方公共団体の防災業務を担当する職員を対象とした研修や訓練を定期的実施しており、これらの研修等において、最新の気象行政の動向や防災気象情報の実践的な利活用方法等について情報提供をしております。

す。このような研修や訓練について、本市の参加状況を伺います。

○議長（中山和夫君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） 内閣府や消防庁等が主催する自治体危機管理・防災責任者研修に参加をしております。また、千葉県の主催による千葉県防災・危機管理トップセミナーや市町村防災担当職員実践研修に参加し、避難所運営等の訓練を実施しております。

○議長（中山和夫君） 山田広宣議員。

○14番（山田広宣君） 研修に参加した職員だけが知識を有していることで、その職員がたまたま不在であった場合ですとか、人事異動等々で異動した後で戸惑うことがないように、知識の共有を図っておいていただきたいと考えます。

気象庁では、これまで自治体に気象予報士を派遣するモデル事業を実施してきましたが、一部地域に限定されておりました。平成29年度には、地方公共団体の防災の現場で即戦力となる気象防災の専門家育成を目的としました気象防災アドバイザー育成研修を実施いたしまして、当該研修受講者を気象防災アドバイザーとしてリスト化して、市町村への気象防災アドバイザー周知を実施しております。そこで、この気象防災アドバイザーの存在と任務内容について、当局の認識を伺います。

○議長（中山和夫君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） 気象防災アドバイザーにつきましては、地域の気象と防災業務に精通し、防災業務を直接支援していただける方と認識しております。

○議長（中山和夫君） 山田広宣議員。

○14番（山田広宣君） 認識はしてくださっているということで理解をいたしました。

昨年10月ですが、公明党の山口代表による参議院本会議代表質問での提案をきっかけにしまして、気象庁は、この気象防災アドバイザーに気象台のOB・OGを任命することとなりまして、令和3年4月には全国で84名が気象防災アドバイザーとして委嘱されております。

本市が大規模災害における相互応援に関する協定書を取り交わしております茨城県龍ケ崎市でも、2017年8月から市独自でアドバイザーを採用し、各種防災活動を進めております。これまでに5・6年生を対象にした防災授業を開催したりと、災害対応の最前線に立つ市職員向けの研修も実施しております。研修に参加した職員からは、最新気象データの利活用を教わり、緊急時の対応に自信が持てるようになった、あるいは、同市の中山市長は、避難情報の発令や市の対策を決める上での迷いが払拭されているとも語っております。

このように、現在、全国10自治体でこの気象防災アドバイザーが活躍しております。本地域

においても、地元の特徴を把握した気象防災アドバイザーを活用すべきと考えますが、当局は必要性を含めて、どのように考えるのか伺います。

○議長（中山和夫君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） 気象防災アドバイザーの重要性につきましては認識しており、他の自治体の状況を調査研究してまいりたいと考えております。

○議長（中山和夫君） 山田広宣議員。

○14番（山田広宣君） 近年は局所的なゲリラ豪雨ですとか、線状降水帯などによる長雨が頻発しておりまして、自治体レベルでの気象災害情報の活用が防災・減災につながると考えます。

他の自治体の状況を調査研究してからとのことでありましたが、本市でも、この地域の地形や気象情報に精通する気象台OB・OGの経験を生かす仕組みを構築しておくべきであります。本地域として注意すべき自然災害、避難情報の種類や確認方法などについて分かりやすく解説をしてもらうなど、市民の防災意識向上、地域防災力向上のためにも、気象防災アドバイザーの活用を要望しておきます。

では、次に、終活についての質問に移ります。先ほどの答弁で、終活について、当局の認識が確認でき、終活の必要性は共有できました。

ところで、本市では、そうはいっても、終活という言葉を前面に押し出したり、積極的に相談を受けることは縁起でもない、市民の目からなるべく見えないように取り組んでいこうと、そういった後ろ向きの考えをお持ちなのか、あるいは逆に堂々と終活を推進するつもりがあるのか伺います。

○議長（中山和夫君） 福祉部長 斎藤洋士君。

○福祉部長（斎藤洋士君） 終活の推進につきましては、核家族化の進展に伴い、高齢者の単身世帯や高齢者のみの世帯が増加していることもあり、人生の最期に向けての様々な悩みや問題を抱えている方も増えていくものと思われますので、推進に努めてまいりたいと考えております。

○議長（中山和夫君） 山田広宣議員。

○14番（山田広宣君） 行政として、真剣に死と向き合う取組を推進する考えがあるということで、安心できました。

昨年度の終活講座は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止とのことでありましたが、それ以前に4回実施済みとのことであります。参加状況など、市民の関心はいかがであったのか伺います。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 以前実施いたしました終活講座につきましては、合計で120名募集したところ、116名の参加があり、市民にとりましては関心の高いものであると認識をしております。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 山田広宣議員。

○14番（山田広宣君） では、終活に関する相談について、現在、本市ではどの窓口で対応しているのか、また、どのような相談があるのか伺います。

○議長（中山和夫君） 福祉部長 斎藤洋士君。

○福祉部長（斎藤洋士君） 相談の窓口は、地域の高齢者の総合相談窓口であります地域包括支援センターでございます。

相談内容につきましては、財産についての相談が多く、寄附や生前贈与などは司法書士等の専門職につなげて対応したケースもございます。ほかには、終末期の介護や医療についての相談などがございます。

○議長（中山和夫君） 山田広宣議員。

○14番（山田広宣君） 幾つもの相談があるようでありますが、相談内容等を含めて、行政として現時点、どのような課題があると捉えているのか伺います。

○議長（中山和夫君） 福祉部長 斎藤洋士君。

○福祉部長（斎藤洋士君） 課題の1つ目といたしましては、終活に関する啓発があると考えております。人生の終わりに向けては、高齢者がそれぞれに不安や悩みを抱えていると思われませんが、終活に関する情報が知られていないところもありますので、万が一のときに備えて自分の意向を伝えておくなど、前向きな活動につなげていただくよう、適切な啓発をしていくことが課題であると考えております。

2つ目といたしましては、丁寧な相談対応があると考えております。相談にあたりましては、一人一人の生活環境や家族関係などを把握した上で、関係機関との連携や専門職への仲介なども含め、その人の人生や価値観に寄り添いながら、不安を煽ることなく、生活の安心につながるよう、丁寧に対応していくことが求められていると考えております。

○議長（中山和夫君） 山田広宣議員。

○14番（山田広宣君） 今、2つの課題を述べていただきましたが、まさにそのとおりであると思います。市民の気持ちを理解していただいているかと思います。まずは話を聞いてくれる、丁寧に相談に乗ってくれるところがあるだけでも市民は安心できると思いますので、よろしく

お願いします。

そのような意味でも、今後、終活に関して本格的な担当部署を設けるとしたらどこになるのか伺います。

○議長（中山和夫君） 福祉部長 斎藤洋士君。

○福祉部長（斎藤洋士君） 担当部署につきましては、関係各課と協議して決定することとなります。なお、他団体においては、終活支援につきましては、高齢者福祉の担当課や地域包括支援センターなどが担当しているのが多い状況でございます。

○議長（中山和夫君） 山田広宣議員。

○14番（山田広宣君） 承知しました。もしこの2つの部署となるとしましたら、大変忙しい部署であるということは承知しておりますが、協議の上、なるべく早くお願いをしたいと考えます。

先ほど、エンディングノートという言葉がありましたが、本市にはエンディングノートのようなものを置いているのかどうか伺います。

○議長（中山和夫君） 福祉部長 斎藤洋士君。

○福祉部長（斎藤洋士君） エンディングノートにつきましては、無料でダウンロードできるものや市販されているもの、また、内容やデザインについて創意工夫を凝らしたものなど様々なものがあり、容易に入手が可能となっておりますので、本市では御用意をしてございません。

○議長（中山和夫君） 山田広宣議員。

○14番（山田広宣君） 容易に入手が可能なので用意していないということでしたが、一度市民の目線、特に該当すると思われる方の目線で考えていただきたいと思います。

ただ、エンディングノートという名称ですけれども、これはややマイナス的なイメージもあります。千葉県印西市では「わたしノート」、東京都調布市では「じぶんノート」、宮崎県都城市では「絆ノート」といった独自の名称を用いております。

また、静岡県磐田市では「私と家族のあんしんノート」としまして、自分の新たな目標や生きがいを見つけ、大切な人との絆を深めるきっかけづくりの役割を持たせる工夫をしており、市民には好評とのことでもあります。内容もさることながら、常に見やすい場所に置けるやさしいデザインでもありまして、磐田市のウェブサイトからダウンロードもできますので、ぜひ参考にしていただければと思います。

そこで、本市でも独自の名称を付けながら、終活に向けて書き込むノートを作成すべきと考えますが、当局の考えを伺います。

○議長（中山和夫君） 福祉部長 斎藤洋士君。

○福祉部長（斎藤洋士君） エンディングノートの作成につきましては、今後、他団体の先進的な取組を参考に、本市の終活支援全体についてどう取り組んでいくか調査研究する中で、地域包括支援センターの相談状況も考慮しながら検討してまいりたいと考えております。なお、作成する際は、独自の名称につきましても検討したいと考えております。

○議長（中山和夫君） 山田広宣議員。

○14番（山田広宣君） 確かに市販はされておりますが、わざわざお金を出して購入する人も決して多くはないと思います。

岐阜県羽島市の「私のエンディングノート」は、製作費用を民間事業者の広告料で賄っております。本市においても独自の名称、財源を検討した上で、このノートの導入を要望いたします。

大切な家族に御自分の思いを残す方法として、エンディングノート以外に遺言書があります。どちらも御自身の思いを伝えるための手段ではありますが、エンディングノートはノートさえあればいつでも始められ、御自身で自由に書くことができることがメリットであります。逆に、遺言書は作成に費用がかかり、不備があると効力を失う。手書きの遺言書は自ら保管する必要があり、紛失や改ざんのおそれがあるというデメリットがありました。しかし、昨年7月10日から、法務局に預ける公的な自筆証書遺言書保管制度が開始されております。この制度の内容を伺います。

○議長（中山和夫君） 福祉部長 斎藤洋士君。

○福祉部長（斎藤洋士君） この制度は、作成した自筆証書遺言書の保管を本人が法務局で申請し、法務局が遺言書の形式を確認した上で、原本を保管するというものでございます。これにより遺言書の紛失や改ざんを防げるとともに、家庭裁判所の検認手続が不要となり、従来に比べ、自筆証書遺言が利用しやすくなったところでございます。

○議長（中山和夫君） 山田広宣議員。

○14番（山田広宣君） その新たにスタートした自筆証書遺言書保管制度と、公証役場で作成する従来からある公正証書遺言のメリット、デメリットを伺います。

○議長（中山和夫君） 福祉部長 斎藤洋士君。

○福祉部長（斎藤洋士君） 自筆証書遺言書保管制度のメリットとしましては、自書が可能であれば、いつでも自らの意思により作成ができますので、手軽で自由度が高いことが挙げられます。また、費用が安いことも挙げられます。デメリットとしましては、法務局では遺言書の

内容までは審査をいたしませんので、内容によっては相続時にトラブルになるおそれがあることが挙げられます。

公正証書遺言のメリットとしましては、法律の専門家である公証人が作成に関わることから、信頼性が高いことが挙げられます。デメリットとしましては、公証人と打合せをして作成しますので、手間や時間がかかること、2人以上の証人が必要なこと、さらに、財産に応じて費用がかかることなどが挙げられます。

○議長（中山和夫君） 山田広宣議員。

○14番（山田広宣君） よく分かりました。ありがとうございました。

この自筆証書遺言書保管制度、これは法務局の管轄であります。コロナ禍による外出自粛の影響の影響などもあり、予想したほど認知度は上がっていないようであります。法務局としても、自治体の協力を得て、幅広い世代に周知したいとしております。終活への関心が高まる中、ニーズはあると思われまますので、本市でも積極的に周知すべきと考えますが、市の見解を伺います。

○議長（中山和夫君） 福祉部長 斎藤洋士君。

○福祉部長（斎藤洋士君） 遺言は法的な効力があり、御自身が亡くなった後、財産をどのように分配するか意思表示をする確実な方法であることから、終活を啓発していく中で周知を図ってまいりたいと考えております。

○議長（中山和夫君） 山田広宣議員。

○14番（山田広宣君） ぜひよろしくお願いをしたいと思います。ここではこれ以上質問いたしません。家族信託といたしまして、自分で自分の財産管理をできなくなってしまうときに備えて、家族に自分の財産の管理ですとか処分をできる権限を与えておく方法もあります。家族、親族に管理を託すので、高額な報酬は発生せず、資産家だけでなく、誰にでも気軽に利用できる仕組みであります。亡くなった後にトラブルを引き起こさないために、遺言書の作成ですとか、終活に向けて書き込めるノート、家族信託など、様々な選択肢があることを、市民に一番身近で寄り添った業務をしていらっしゃる市役所としまして、周知をしていただければと考えます。よろしくお願いたします。

先ほど登壇した際に紹介した神奈川県大和市のような取組は無理だとしましても、今回の質問を通して、行政として終活や死を縁起でもない、市民の目から遠ざけようという考えをお持ちではないことが理解できた意味は大きかったと感じます。

また、以前一般質問しておりますが、死亡に伴う手続をワンストップで行うおくやみコーナ

一の設置であったり、ICTを活用した手続の簡素化など、市民目線での取組もぜひお願いをしたいと思います。

市職員の皆様は、全ての市民が快適で安心した日常生活を送れるよう、日々多岐にわたる業務を遂行してくださっております。行政のプロフェッショナルとして幅広い知識、高い能力を発揮しつつ、時代に即した新たな形をつくり上げていく想像力と企画力にも期待をしながら、私の一般質問を終わりといたします。

○議長（中山和夫君） 以上で山田広宣議員の一般質問を終わります。

ここで、しばらく休憩します。

午前10時51分 休憩

————— ☆ ————— ☆ —————

午前11時00分 開議

○議長（中山和夫君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、高山佳久議員の一般質問を許します。高山佳久議員。

（6番 高山佳久君登壇）

○6番（高山佳久君） 薫風もばらの高山佳久でございます。議員として初めての一般質問になります。市民の皆様の御負託に応え、茂原市の発展のために心血を注いで取り組んでまいります。

それでは、通告に従い質問をさせていただきます。

1項目めは、コロナ禍中における避難対策についてです。現在、コロナ禍において、人々とのコミュニケーションを取ることも減り、地域での活動も制限せざるを得ない状況となっております。このような中でも、日本は毎年大きな自然災害を受け、今年も台風9号や10号、また、線状降水帯による大雨の被害にも遭っています。改めて自助、共助、公助による災害対策が重要だと考えますが、コロナ禍において、特に共助の取組が弱くなっているように思われます。

そこで、コロナ禍における自助、共助、公助の在り方についてどのように考えるか、また、その考えを市民にどのように情報発信していくのかお伺いいたします。

次に、コロナ禍における避難所の充実についてです。コロナウイルス感染症への対策をしっかり見据えた避難所にしていくことが重要だと考えますが、コロナ禍に対応した避難所の充実をどのように図っているのかお伺いいたします。

次に、2項目め、7月3日・8月8日の被害、避難指示、内水氾濫対策についてです。7月3日の大雨、8月8日の台風10号の際に避難指示が出されました。そこで、茂原市では7月3

日の大雨及び8月8日の台風10号ではどのような道路被害があったのか、また、両日とも通行止めになった道路は何か所あったのかお伺いいたします。

続いて、7月3日と8月8日には避難指示が出されておりますが、その際の避難されてきた方の人数及び避難の理由は何かお伺いいたします。

次に、3項目め、通学路の安全についてです。6月28日に、八街市で小学生の列にトラックが突っ込んで、児童5人が死傷するという悲惨な事故がありました。警察庁によりますと、歩行中の小学生が被害に遭った死亡・重傷事故のうち、約3分の1が登下校中に発生しているということです。八街市の事故を受けて、千葉県教育委員会は、県立学校と市町村の教育委員会に対して、通学路の安全確保を徹底する通知を出しました。

そこで、市では危険な通学路の把握をどのようにしているのか。また、危険な通学路についてどのような対策をとっているのかお伺いいたします。

次に、4項目めのGIGAスクールについてです。GIGAスクール構想によって、茂原市内の小中学校の児童生徒1人に1台の端末が整備されました。また、今年度、ICT支援員1名が配置されております。そこで、ICT支援員についてですが、どのような業務を行っているのかお伺いいたします。

2点目は、普通教室の電子黒板等大型提示装置の整備状況についてです。文部科学省では、教育のICT化に向けた環境整備5か年計画により、2022年度までに大型提示装置等を各普通教室に1台、特別教室用6台として整備することを掲げています。そこで、市内小中学校の普通教室に電子黒板、大型テレビ、プロジェクターはそれぞれどのくらい整備されているのかお伺いいたします。

続いて、教職員の働き方改革についてです。国立成育医療研究センターが、去年11月からおよそ1か月半の間に新型コロナウイルスによる心の影響を調査した結果、小学生の15%、中学生の24%、高校生の30%に中程度以上の鬱の症状が見られたという報告をしています。

また、夏休み明けは自殺する子どもたちの数が増えるという状況があります。コロナ禍において、令和2年度の児童生徒の自殺者は全国で499人、前年度よりも100人も多くなっており、特に毎年、夏休み明けは一番多くなっているという状況があります。

教師は、子どもたちの健康や心の状態を把握するため、子どもたちの様子やサインを見逃さないよう、常に子どもたちに寄り添うことが必要です。しかし、教師の仕事は忙し過ぎて心に余裕が持たず、子どもたちの状況をしっかりと把握できないことがあります。

そこで、文部科学省では、平成31年3月に学校における働き方改革に関する取組の徹底につ

いてという通知を出し、働き方改革の推進を図っていますが、市では教職員の働き方改革にどのように取り組んでいるのかお伺いいたします。

次に、給食費の公会計化についてです。学校給食費について、文部科学省は、学校給食費の公会計化を促進し、保護者からの学校給食費の徴収・管理業務を地方公共団体が自らの業務として行うことにより、公立学校における学校給食費の徴収・管理に係る教員の業務負担を軽減することを目的として、学校給食費徴収・管理に関するガイドラインを作成し、公表しています。そこで、市では学校で行っている給食費の集金業務を公会計化することができないかお伺いいたします。

最後に、学校における新型コロナウイルス感染症予防対策についてです。現在流行している新型コロナウイルスのデルタ株は、感染力が強く、従来あまり見られなかった子どもたちへの感染も広がり、県内でも保育所等でクラスターが発生したという報告もあります。

そこで、9月からの公立保育所、公立幼稚園、小中学校における新型コロナウイルス感染症予防について、特にどのようなことに力を入れて取り組んでいくのかお伺いいたします。

以上で1回目の質問を終わりにいたします。よろしくお願いいたします。

○議長（中山和夫君） ただいまの高山佳久議員の一般質問に対し、当局の答弁を求めます。

市長 田中豊彦君。

（市長 田中豊彦君登壇）

○市長（田中豊彦君） 高山佳久議員の一般質問にお答えさせていただきます。

私からは、まずコロナ禍における避難対策についての中で、自助、共助、公助の在り方についての御質問でございますが、自助、共助につきましては、自分の身は自分で守っていただくことや避難物資の確保等を行ってもらうこと、そして隣近所、自治会で支援が必要な方がいないか確認・把握をしてもらい、近所や地域での相互協力による助け合いの輪を広げていただきたいと思いますと考えております。また、指定避難所の運営に関しましては、地域の方で協力して運営を行うことを目指したいと思っております。公助につきましては、防災の情報発信や災害時の救助活動、ライフラインの確保を行うとともに、自助・共助の取組の支援を考えております。これらの考え方については、コロナ禍においても、感染症対策を十分に実施することにより、通常時と同様であると考えております。

情報発信につきましては、茂原市洪水ハザードマップに掲載するとともに、広報や市公式ウェブサイトにおいても周知を図っております。今後、さらに周知に努めてまいりたいと思っております。

次に、コロナ禍に対応した避難所の充実についての御質問でございますが、避難所における新型コロナウイルス感染症対策といたしましては、避難所の受付において手指消毒や健康状態チェックリストの提出をしていただくとともに、避難者の皆様へのお願いと題したリーフレットを配付し、避難所での基本的な生活ルールに加え、マスクの着用や十分な換気、定期的な検温等、感染症対策の周知を図るものとしております。

また、備蓄品につきましては、従来の食料や毛布等の生活備品に加え、新型コロナウイルス感染症対策として、マスク、手指消毒液等の衛生用品や段ボールパーティション、防災テント等の備品を整備しております。

私からは以上でございます。

○議長（中山和夫君） 都市建設部長 渡辺修一君。

（都市建設部長 渡辺修一君登壇）

○都市建設部長（渡辺修一君） 都市建設部所管に関わります御質問に御答弁いたします。

7月3日・8月8日の被害、避難指示、内水氾濫対策についての御質問で、7月3日・8月8日の被害及び両日通行止めになった道路の中でどのような道路被害があったか、また、両日とも通行止めになった道路は何か所あったかとの御質問ですが、道路被害につきましては、7月3日の大雨では倒木3件、道路のり面崩落4件、道路冠水20件で、8月8日の台風10号では、倒竹木3件、道路のり面崩落5件、道路冠水7件でございます。両日ともに通行止めとなった道路は6か所となります。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 総務部長 鈴木祐一君。

（総務部長 鈴木祐一君登壇）

○総務部長（鈴木祐一君） 総務部所管に関わります御質問に御答弁申し上げます。

7月3日・8月8日の被害、避難指示、内水氾濫対策についての中で、避難指示が出された際の避難されてきた方の人数及び避難の理由についての御質問でございますが、7月3日の避難指示を発令した際には、避難所を3か所開設し、ピーク時において4世帯5名の避難者がおりました。また、8月8日の際には、避難所を5か所開設し、ピーク時には2世帯3名の避難者がおりました。避難の理由につきましては、浸水被害を避けるために自主的に避難をされたものと考えております。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 教育長 内田達也君。

（教育長 内田達也君登壇）

○教育長（内田達也君） 教育関係の御質問に御答弁申し上げます。

初めに、危険な通学路の把握と対策でございますが、危険箇所につきましては、各小学校が毎年度7月に通学路点検を行い、その結果報告により把握をしております。また、茂原警察署、千葉県長生土木事務所、茂原市小中学校教頭会のほか、茂原市役所内の関係各課の参加により、通学路安全推進会議を毎年開催し、危険箇所の共通理解を図っております。具体的な対策として、それぞれの担当部署により、信号機の設置要望、歩道や横断歩道の整備、注意喚起の看板や側溝蓋の設置等を行っております。

次に、GIGAスクールについて、ICT支援員の業務内容でございますが、教職員を対象としたタブレットパソコンやアプリケーションの操作研修、ティーム・ティーチングによる授業サポート、事前の授業準備、タブレットパソコンや周辺機器のトラブル時の対応を、各小中学校を巡回しながら行っております。

次に、普通教室の電子黒板等の整備状況でございますが、市内小中学校を合わせて、電子黒板は6台、大型ディスプレイは112台、プロジェクターは68台、計186台が配置されており、市内全小中学校243教室に対して約77%の整備状況となっております。

次に、教職員の働き方改革について、市では教職員の働き方改革にどのように取り組んでいるのかとの御質問でございますが、タイムカードや留守番電話の導入、部活動のガイドラインを作成するなどして、教員の負担軽減を図っております。また、県教育委員会作成の学校における働き方改革推進プランに則り、一月あたりの在校等時間が基準以下となるように、研修等によって全体の意識改革を図っております。

次に、学校で行っている給食費の集金業務を公会計化することはできないかとの御質問でございますが、給食費の集金業務につきましては、教員の業務負担軽減等の観点から、地方公共団体の業務として行うことが求められており、本市でも先進自治体の事例を参考に調査研究を行っておるところでございます。

次に、学校等における9月からの新型コロナウイルス感染症予防対策についてでございますが、公立幼稚園、小中学校の9月からの感染予防については、毎朝、登園登校前に検温及び健康観察を確実にを行い、発熱や風邪症状がある場合は登園登校を控えていただくことで感染源を断ち、換気の徹底、身体的距離の確保、マスク着用により三密回避を徹底しております。また、部活動の中止、運動会の延期及び簡素化、修学旅行の延期、当面の間の授業時間の短縮など、集団リスク回避のための対応を行っております。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 福祉部長 齋藤洋士君。

（福祉部長 齋藤洋士君登壇）

○福祉部長（斎藤洋士君） 福祉部所管に関わります御質問に御答弁申し上げます。

学校等における新型コロナウイルス感染症予防対策についての中で、9月からの公立保育所における新型コロナウイルス感染症予防対策についての御質問ですが、保育所は社会を安定的に維持するために必要不可欠な施設であることから、国や県からの要請により、感染防止対策を徹底しながら、原則開園することとされております。

本市では、これまでも国の保育所における感染症対策ガイドラインに基づき、感染予防の徹底に努めてまいりましたが、このたびの緊急事態宣言を受けて、登園児の引渡しの際に職員が声かけを行い、園児及び同居家族の体調を確認するなど、さらなる体調管理の徹底に努めているところでございます。9月以降もこれまでの感染防止対策を継続してまいります。今後の感染状況によっては、登園自粛要請等も踏まえて、実効性のある対策に取り組んでまいります。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 再質問ありますか。高山佳久議員。

○6番（高山佳久君） まず、コロナ禍における避難所の充実についてお聞きします。コロナ禍に対応した備蓄品について、私も備蓄倉庫の中を見させていただいたのですが、とても充実しておりました。当局の御努力に感謝申し上げたいと思います。

備蓄品を避難したときに効果的に活用することが大切だと思いますが、新しくそろえた防災備品を多くの市民の皆様知ってもらい、いざというときに速やかに使えるようにするために、避難所ごとに訓練が必要だと思いますが、その点はいかがでしょう。

○議長（中山和夫君） 総務部長 鈴木祐一部長。

○総務部長（鈴木祐一君） コロナ禍のため、参加人数は制限いたしますが、例年実施している地域防災訓練を、本年度は高師地区で予定しております。その中で、千葉県災害対策コーディネーターもばらの協力を得ながら、避難所の受付やコロナ対策の防災備蓄品を活用した避難所運営訓練を計画しております。そのほか、各地区において、自主防災組織などが独自で訓練等を行い、備蓄品などの確認をしていただいております。

○議長（中山和夫君） 高山佳久議員。

○6番（高山佳久君） 避難所運営について、行政が対応していくことは難しく、地域の方で避難所を運営していくことが必要だと思います。自主防災組織は、その避難所の運営をするのに大きな役割を果たしていくと思われれます。そこで、市には自主防災組織は幾つあり、市としてどのような支援をしているのでしょうか、お伺いいたします。

○議長（中山和夫君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） 自主防災組織は、令和3年8月末時点で91団体でございます。新規に設立した団体については、防災資機材の貸与や、そのほか必要な防災資機材の購入費用、防災倉庫設置費用の補助を行っております。また、既存の団体へも必要な防災資機材の購入費用に対する補助を行っておるところでございます。以上です。

○議長（中山和夫君） 高山佳久議員。

○6番（高山佳久君） 自主防災組織が未組織の地域もあると思いますが、自主防災組織の役割の大切さを知ってもらい、新しく組織を立ち上げてもらうためにどのような支援をしているのでしょうか。

○議長（中山和夫君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） 自主防災組織の立ち上げにつきましては、自治会長連合会などへ働きかけを行っております。また、設立を考えている地区に対しまして、規約等の助言や、設立のきっかけづくりとして職員出前講座を行っております。今後も自主防災組織の重要性を周知するとともに、設立を支援してまいります。以上です。

○議長（中山和夫君） さらに質問はありますか。高山佳久議員。

○6番（高山佳久君） コロナ禍の中で非常事態宣言も出されており、訓練がなかなかできない状況が続いておりますけれども、落ち着きを見せてまいりましたら、状況を見て、工夫して充実した訓練を行うようお願いいたします。ぜひとも共助の充実ということに力を入れていただければというふうに思います。

次に、7月3日と8月8日、通行止めになった道路が6か所ということですが、その中に、小林地区の道路に冠水被害があったと思いますが、その原因は何でしょうか。

○議長（中山和夫君） 都市建設部長 渡辺修一君。

○都市建設部長（渡辺修一君） 当該箇所は、低い土地で雨水が集まりやすい地形であること、また、この地域全体が平坦な地形で、排水施設の勾配が緩く、排水能力が低いことなどが原因と捉えております。

○議長（中山和夫君） 高山佳久議員。

○6番（高山佳久君） 小林地区の冠水したところでは水深が30センチから50センチ以上に達して、孤立した状態となり、トイレも使えない家もあったそうです。ここに生活する人たちは、少しでも被害を減らそうと、住民みんなで定期的に排水溝の清掃をしていますが、毎年のように冠水被害があります。少しでも雨が強くなるたびに、また冠水するのではないかと神経をすり減らして生活している状況です。小林地区の冠水対策について、どのような手だてを考えて

いるのでしょうか。

○議長（中山和夫君） 都市建設部長 渡辺修一君。

○都市建設部長（渡辺修一君） 排水流末となる豊田川合流点からの排水路改修を考えております。

○議長（中山和夫君） 高山佳久議員。

○6番（高山佳久君） 排水対策の計画は立てられているのでしょうか。

○議長（中山和夫君） 都市建設部長 渡辺修一君。

○都市建設部長（渡辺修一君） 平成26年度に排水計画検討業務を実施し、排水路改修の計画をしております。

○議長（中山和夫君） 高山佳久議員。

○6番（高山佳久君） 計画が立てられてから7年近く経つわけですので、速やかに改修が進むようお願いいたします。また、小林地区以外の冠水したところでも同じような状況があると思います。困っている住民もいると思いますので、早急な冠水対策をお願いいたします。

続いて、7月3日と8月8日は土砂災害に対する避難指示でしたが、避難所以外のところに避難された方もいると思います。避難したか、しなかったかという状況はつかめませんが、避難をするのにハザードマップを参考にしたいと思います。その内容の重要性を啓発するためどのようなことを行っているのでしょうか。

○議長（中山和夫君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） 昨年度は、市内各地区において、自治会長を対象とした説明会を開催し、啓発に努めてまいりました。また、市公式ウェブサイトや、9月1日号の広報もばらにおいて、ハザードマップを用いた避難行動の判定手順を掲載し、周知を図っておるところでございます。以上です。

○議長（中山和夫君） さらに質問ありますか。高山佳久議員。

○6番（高山佳久君） 自助力を高めるという観点から、今後とも様々な取組をお願いいたします。

続いて、通学路についてお伺いします。以前から通学路の安全について、小学校が毎年度通学路点検を行い、関係機関と連携し、通学路安全推進会議を開催して、危険な通学路の解消に努めていることに感謝いたします。

その中で、昨年度、何か所の危険な通学路があったのか、また、危険が解消された通学路は何か所あるのかお伺いいたします。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 昨年度、通学路点検により危険箇所として把握した箇所数は66か所となっております。このうち、現時点で危険が解消された通学路は12か所となっております。

○議長（中山和夫君） 高山佳久議員。

○6番（高山佳久君） 危険が解消されていない道路がまだ多く残されていますが、今後どのような対応を取ろうと考えているのかお伺いいたします。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 道路改良や地権者との協議が必要な場合は、継続して事業を実施するとともに、通学指導やボランティアによる見守り等を行い、通学路の安全を図ってまいります。

○議長（中山和夫君） 高山佳久議員。

○6番（高山佳久君） 豊田小学校の前を通る県道293号線も大変道路が狭くて、児童が歩いているすぐそばを車が通って、危険だと思うところがあります。しかし、いろいろな事情で解消されておりません。残された危険な通学路については、なかなか解消が難しいところもあると思いますが、子どもたちの命に関わることなので、関係機関との連携を深め、解消に向けて努力するようお願いをいたします。

続きまして、GIGAスクールについてです。ICT支援員の活用について再質問いたします。学校の声として、ICT支援員が来てくださるのはとてもありがたいが、月に数日で、時間も限られていて、日数や時間の増加を望む声が多いです。理科の学習で学校支援ボランティアに来ていただいて大変助かったという声も聞かれます。ICT関係の学習においても学校支援ボランティアを活用することはできないでしょうか。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 現在、ICT関係の学校支援ボランティアは数名おりますが、今後はさらなる活用について検討をまいります。

○議長（中山和夫君） さらに質問ありますか。高山佳久議員。

○6番（高山佳久君） コロナ禍により、オンライン事業の必要性も高まっております。今年度から本格的にICTの学習が始まったわけですが、学校ではまだまだ戸惑うこともあると思います。ICTをよりスムーズに活用できるような研修の充実も併せてお願いいたします。

続きまして、電子黒板などの大型提示装置は、普通教室では約77%の整備とお伺いいたしましたが、特別教室の整備状況はどうでしょうか。

○議長（中山和夫君） 教育部長 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 特別教室につきましては、ほとんど整備がされておられません、状況に応じて移動可能な電子黒板を活用するなどの対応をしております。

○議長（中山和夫君） 高山佳久議員。

○6番（高山佳久君） 今後、電子黒板等を整備していく計画はありますか。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） ICTを活用した学習活動の充実のために、電子黒板等の大型提示装置のさらなる整備が必要であると考えておりますので、今後も予算の確保に努めてまいりたいと考えております。

○議長（中山和夫君） 高山佳久議員。

○6番（高山佳久君） ICTを活用した子どもたちの豊かな学びのためにも、来年度以降も予算化し、整備をお願いいたします。

次に、教職員の働き方改革について再質問いたします。教職員の学校にいる時間を基準以下にするためには業務の改善が必要だと思いますが、事務仕事の効率化を図るため、支援ソフト等を導入することはできないでしょうか。

○議長（中山和夫君） 答弁を求めます。教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 10月1日から校務支援システムを導入いたします。

○議長（中山和夫君） 高山佳久議員。

○6番（高山佳久君） システムを構築するにあたって、教職員の声を聴く場を設けたのでしょうか。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 導入に際しては、体験会を実施し、様々な意見を聴取いたしました。

○議長（中山和夫君） 高山佳久議員。

○6番（高山佳久君） ぜひとも業務の効率化と事務仕事の内容の軽減が図られるよう、現場の声を聴きながら進めるようお願いをいたします。

続いて、給食費の公会計化についてですが、いつ頃の実施を目指しているのでしょうか。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 具体的な導入時期は決まっておられません、今後、業務に対応するための人員確保、予算要求、情報システムの整備等について、関係部署との協議を進め、早

期の実施を目指してまいります。

○議長（中山和夫君） 高山佳久議員。

○6番（高山佳久君） 学校の先生方からは、引き落としができない家庭から現金で徴収・管理したり、未納の催促で家庭に連絡したり、未納分を差し引いて給食費の払込みをしたりと、非常に負担であるとの声が上がっています。早い時期での公会計化をお願いいたします。

次に、学校等における感染症予防対策ですが、先生方が細心の注意を払いながら、子どもたちを第一に考えて日々努力をされていることに心から感謝いたします。感染症予防のためには、ワクチン接種が1つの鍵となり、既にほとんどの教職員がワクチン接種を終えているとのことですが、特別支援教育支援員や学習サポーターの方への接種状況はどうでしょうか。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 教職員を対象としたワクチン接種につきましては、学校現場における全ての職員を対象といたしましたので、等しく、概ね接種が完了していると認識しております。

○議長（中山和夫君） 高山佳久議員。

○6番（高山佳久君） 今流行しているデルタ株は感染力が強くなっていると言われ、常時換気をするなど、今まで以上の対策が必要になってきています。ただ、換気で窓を開けていると、蚊が入って刺されてしまったということがあるそうです。また、蜂が入ってきて大騒ぎになった学校もあったと聞いています。室内換気をする場合、それぞれの施設の窓に網戸の設置が必要と考えますがどうでしょうか、お伺いいたします。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 新型コロナウイルスの感染症予防対策の1つとして、換気をするために窓を開けることも多くありますが、網戸の設置につきましては、現在のところ考えておりません。

○議長（中山和夫君） 福祉部長 斎藤洋士君。

○福祉部長（斎藤洋士君） 公立保育所では、全ての保育室に換気用の網戸の設置が完了しておりますので、換気を徹底することで感染症予防に努めてまいります。

○議長（中山和夫君） さらに質問ありますか。高山佳久議員。

○6番（高山佳久君） 保育所は既に設置しているということで、速やかな対応、大変ありがたいと思います。幼稚園や立地条件により蚊などが発生しやすい学校の普通教室で、換気する窓のところだけでも網戸をつけられないでしょうか。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 現在のところ、幼稚園や学校から網戸を設置してほしいという要望はございませんが、申出があった際には、その施設に適した対応を行ってまいります。

○議長（中山和夫君） 高山佳久議員。

○6番（高山佳久君） 保育所、幼稚園、小中学校の先生方は、細心の注意を払いながらコロナウイルス感染症予防対策をしています。行事をどうするか、密を回避するために授業をどうするかなど、子どもたちのことを第一に考えながら日々の業務に取り組んでおります。

コロナウイルス感染症の状況は悪化してきていて、今後、消毒液やビニール手袋など、コロナ対策のための消耗品費が足りなくなることも予想されます。ぜひとも子どもたち、保護者の皆様、先生方が、学校での生活を安心した楽しい場に思えるよう支援をお願いいたしまして、私の一般質問を終わりにいたします。ありがとうございました。

○議長（中山和夫君） 以上で高山佳久議員の一般質問を終わります。

ここで、しばらく休憩します。

午前11時44分 休憩

————— ☆ ————— ☆ —————

午後1時00分 開議

○議長（中山和夫君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、工藤孝弘議員の一般質問を許します。工藤孝弘議員。

（2番 工藤孝弘君登壇）

○2番（工藤孝弘君） 皆様、こんにちは。新政会の工藤孝弘でございます。

夢と希望と感動、また、元気をいただいた東京2020オリンピック・パラリンピックが盛況に終わりました。一方、新型コロナウイルス対策や大雨・防災対策が国内での喫緊の課題であり、地方行政においては、人口減少や東京一極集中という難題が未解決のままであり、その影響で地方の少子高齢化は加速し、社会保障費の大幅な拡大から、財源の確保という難題がまだ横たわったままであります。

そして、茂原市では、このような諸問題や度重なる自然災害の猛威による対策、新型コロナウイルスへの緊急対応、地域経済の活性化など、将来のまちづくりを左右する大事な時期を迎えていると感じております。

それでは、通告に従いまして、1回目の質問をさせていただきます。

初めに、災害に強いまちづくりについて、2問質問いたします。

まず、浸水対策についてですが、近年、豪雨災害による大きな被害に関するニュースをしばしば目にしております。本市では、過去30年間で4度の浸水被害が生じており、令和元年10月25日の大雨においては、市内で3600戸を超える浸水被害が発生しております。毎年、全国各地で豪雨災害が発生しており、気候変動による水害の激甚化、頻発化に備えなければなりません。そこで伺います。一宮川中流域で進めている河川激甚災害対策特別緊急事業の進捗状況についてお聞かせください。

次に、一宮川流域の内水対策の状況についてですが、排水ポンプや排水機場の整備などの内水対策を順次進めていると聞いております。そこで、本市が取り組んでいる内水対策の進捗状況について伺います。

2つ目の生活環境の整備について、2問質問いたします。

初めに、農業用排水路の整備についてですが、農業問題として、農業者の高齢化により、担い手の減少や後継者不足、耕作放棄地の増加などがあります。国によりこれらの対策が進められておりますが、農業従事者がますます減少していくものと考えております。そこで、本市ではどのような考えで農業用排水路の整備を進めているのか伺います。

次に、歩道の整備についてですが、散歩中の園児や登下校中の小学生に乗用車などが突っ込む痛ましい事故が全国各地で起きております。歩行者等が安全に通行できるよう、空間の確保等を行い、誰もが安心して道路を利用できるよう、整備が必要であると考えております。そこで、歩道の整備については、どのような考えで整備箇所を選定し、実施しているのか伺います。

3つ目のデジタル技術の導入について質問いたします。国は、5月にデジタル改革関連法が可決・成立し、9月1日にはデジタル庁が設置されるなど、デジタルの活用により、一人一人のニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会、「誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化」を進めることとしています。

D Xと書いてデジタルトランスフォーメーションと読みますが、トランスフォーメーションとは、変形、変化、変質という意味であり、D Xは、デジタル技術の活用により、社会全体の在り方を変えていくことを指しています。少子高齢化、人口減少により厳しい財政状況が今後見込まれる地方自治体にとって、D Xを進める意義は大きいものと思います。

そこで、デジタルトランスフォーメーション（D X）についてお尋ねします。本市では、D Xについて、いつまでに、どのように進めていくのか、基本的な考えをお聞かせください。

4つ目の富士見公園の在り方について質問いたします。富士見公園は運動公園に位置づけられており、野球場1面、庭球場11面、多目的広場やゲートボール場が設置されており、各種ス

ポーツの練習や大会など、年間を通じて広くスポーツに利用されております。また、遊具広場もあり、子どもたちの遊ぶスペースとしても利用されており、誰もが利用しやすい、緑豊かな触れ合いの場となっております。

また、東京オリンピックで、野球が正式種目としては初めて、ソフトボールについても13年ぶりに優勝したことにより、今後、野球やソフトボールの競技人口が多くなり、経済の発展にもつながるものと考えております。

現在の野球場と庭球場は昭和34年に供用開始され、この間、スコアボードの設置や庭球場の増設など、改修や修繕を行いながら現在に至っていると伺っております。しかしながら、両施設とも老朽化が進んでおり、整備が必要と考えております。そこで、富士見公園野球場と庭球場の整備方針について伺います。

以上で1回目の質問とさせていただきます。御答弁よろしく願いいたします。

○議長（中山和夫君） ただいまの工藤孝弘議員の一般質問に対し、当局の答弁を求めます。

市長 田中豊彦君。

（市長 田中豊彦君登壇）

○市長（田中豊彦君） 工藤孝弘議員の一般質問にお答えさせていただきます。

私からは、まず災害に強いまちづくりについての中で、一宮川の河川激甚災害対策特別緊急事業の進捗状況についての御質問でございますが、県が実施する二級河川一宮川の河川激甚災害対策特別緊急事業につきましては、瑞沢川合流点から鶴枝川合流点の約3kmの区間は、河道を約20メートル拡幅する計画としており、現在、拡幅する用地の取得に向け、地権者と用地交渉を行うとともに、橋梁の架け替え及び樋管の付け替え工事の準備を行っているところでございます。

また、鶴枝川合流点から豊田川合流点までの約4.1kmの区間は、河道掘削により河道断面を広げるとともに、護岸を改修する計画としており、本年7月13日に受注業者が決定し、令和6年度末の完成に向け、工事着手したところでございます。

次に、本市が取り組んでいる内水対策の進捗状況についての御質問でございますが、現在実施している早野排水機場及び鷺巣稲荷前水門の排水ポンプ整備につきましては、令和4年度中の稼働に向け、各工事の計画工程に沿って進めているところでございます。

次に、川中島下水処理場雨水ポンプ3台の能力増強につきましては、既に1台目が完成し、現在施工中の2台目は本年度中の完成を、3台目は本年度中から着手し、令和5年度の完成をそれぞれ予定しているところでございます。

また、昨年度実施いたしました令和元年10月25日の大雨に対する総合的内水対策検討業務委託の検討結果及び県が実施している一宮川の護岸法立工事に併せ、大芝調整池並びに笹塚地区の排水ポンプ整備に向け、現在、詳細設計を進めているところでございます。早いところ、内水対策もどんどん進めていかなければいけないと思っております。

私からは以上でございます。

○議長（中山和夫君） 経済環境部長 飯尾克彦君。

（経済環境部長 飯尾克彦君登壇）

○経済環境部長（飯尾克彦君） 経済環境部所管に関わります御質問に御答弁申し上げます。

生活環境の整備についての中で、本市ではどのような考えで農業用排水路の整備を進めているのかとの御質問でございますが、農業用排水路の整備につきましては、毎年各地域から多くの要望があり、緊急性を要する箇所から順次整備を進めております。

市といたしましては、地域が行う小規模な整備につきましては、資材支給や農道小用排水補助金の交付による支援を行うとともに、多面的機能支払交付金の活用を推進することで、地元負担の軽減に努めているところでございます。また、公共的要素の強い大規模な整備に関しましては、国の補助事業を活用した公共事業での整備を実施しておるところでございます。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 都市建設部長 渡辺修一君。

（都市建設部長 渡辺修一君登壇）

○都市建設部長（渡辺修一君） 都市建設部所管に関わります御質問に御答弁いたします。

最初に、生活環境の整備についての御質問で、歩道の整備についての中で、どのような考えで整備箇所を選定し、実施しているのかとの御質問ですが、子どもたちが安全に通学できるように、茂原市通学路安全推進会議において、各小学校から報告された学校周辺の危険な箇所を点検して整備箇所を選定しているところでございます。また、国道や県道に接続する幹線道路や、通り抜けによる交通量の多い道路など、歩行者の安全が確保されるよう、優先性や緊急性、必要性を総合的に判断し、計画的に整備を行っております。

次に、富士見公園のあり方についての御質問で、富士見公園の整備についての中で、富士見公園野球場と庭球場の整備方針についての御質問ですが、富士見公園の整備は、来年度、国の交付金制度を活用して公園施設長寿命化計画の策定を予定しております。この計画は、野球場と庭球場を含めた公園内全ての施設、設備、遊具等の点検を行い、危険度判定した結果により、改修する優先順位を決めて、令和5年度以降、この計画に基づき、国の交付金制度を活用

しながら、各施設等の改修整備を進めてまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 総務部長 鈴木祐一君。

（総務部長 鈴木祐一君登壇）

○総務部長（鈴木祐一君） 総務部所管に関わります御質問に御答弁申し上げます。

デジタル技術の導入についての中で、DXについて、いつまでに、どのように進めていくのか、基本的な考えを伺うとの御質問でございますが、デジタルトランスフォーメーション、いわゆるDXにつきましては、国から示された自治体DX推進計画及び自治体DX推進手順書を参考に、本市におけるDX推進基本方針及びアクションプランについて検討しているところでございます。

具体的には、副市長をCIO（最高情報統括責任者）とする庁内横断的な茂原市DX推進本部を中心に、DXを計画的に進めていくための基本方針及びアクションプランを今年度中に策定する予定でございます。この基本方針及びアクションプランに基づき、令和7年度までの5年間を計画期間として、行政手続のオンライン化やテレワークの推進、地域社会のデジタル化などの諸施策を推進してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 再質問ありますか。工藤孝弘議員。

○2番（工藤孝弘君） 御答弁いただきありがとうございました。これより一問一答方式により再質問させていただきます。

初めに、浸水対策について質問いたします。先ほどの答弁で、県が実施する激特事業の進捗については分かりました。では、現在、一宮川流域治水協議会が設置されておりますが、一宮川流域治水協議会の取組内容について伺います。

○議長（中山和夫君） 都市建設部長 渡辺修一君。

○都市建設部長（渡辺修一君） 一宮川流域において、あらゆる関係者が協働して、流域全体で水害を軽減させる流域治水を、地域との合意の上、計画的に推進するため、一宮川水系流域治水プロジェクトに基づく対策の実施状況のフォローアップを行ってまいります。

○議長（中山和夫君） さらに質問ありますか。工藤孝弘議員。

○2番（工藤孝弘君） 関係者が協働して、流域全体での水害を軽減させるため、計画的に推進が図られるようよろしくお願いいたします。

次に、流域治水の取組の1つとして、既に本市では田んぼダムに取り組んでいる地区があると聞いておりますが、田んぼダムの取組地区と実施面積、総貯留量について伺います。

○議長（中山和夫君） 経済環境部長 飯尾克彦君。

○経済環境部長（飯尾克彦君） 田んぼダムの取組地区につきましては、3団体・4地域で実施しております。実施面積は、柴名・上太田環境保全対策協議会が20.3ヘクタール、国府関環境保全会が16.74ヘクタール、早野地域資源保全会が10ヘクタールの合計約47ヘクタールとなっております。また、総貯留量は、田に10センチ程度貯留するものと仮定すると、約4万7000トンとなります。以上です。

○議長（中山和夫君） さらに質問ありますか。工藤孝弘議員。

○2番（工藤孝弘君） では、今後、田んぼダムの取組地区を増やしていく考えがあるのか、見解を伺います。

○議長（中山和夫君） 経済環境部長 飯尾克彦君。

○経済環境部長（飯尾克彦君） 本年8月中旬より、早野地区において、耕作者の協力を得て、千葉県による田んぼダムの実証事業が行われております。この試験施工を踏まえまして、効果や問題点を検証しながら、今後検討してまいります。

○議長（中山和夫君） さらに質問ありますか。工藤孝弘議員。

○2番（工藤孝弘君） 御答弁ありがとうございました。面的に広がる水田を利用することにより、大きな効果が発揮できるものと考えております。今後も市と地元水利組合等と一体となることで、防災管理体制の構築にもつながりますので、田んぼダムの取組範囲の拡大を要望し、次の質問に移ります。

次に、内水対策についてですが、本市が取り組んでいる内水対策の進捗状況は分かりましたが、さらなる内水対策の取組について見解を伺います。

○議長（中山和夫君） 都市建設部長 渡辺修一君。

○都市建設部長（渡辺修一君） 内水氾濫による浸水被害の軽減に向け、排水ポンプや貯留施設の整備、排水路等の改修を進めるとともに、土地利用施策の検討に取り組んでまいります。

○議長（中山和夫君） さらに質問ありますか。工藤孝弘議員。

○2番（工藤孝弘君） 御答弁ありがとうございました。命や家屋等を水害から守るためには、平時からの備えと対策、避難の際に必要な情報発信が不可欠であります。安心して住み続けられるまちづくりを進めていく上で、早期実現に向け、引き続き取組をよろしく願いいたします。

次に、農業用排水路の整備についてですが、農業問題として、農業者の高齢化により、担い手の減少や後継者不足、耕作放棄地の増加などがあります。先ほどの答弁で整備に関する市の方針は分かりました。では、各事業の補助割合についてお聞かせください。

○議長（中山和夫君） 経済環境部長 飯尾克彦君。

○経済環境部長（飯尾克彦君） 農道小用排水補助金につきましては、茂原市土地改良事業補助金交付要綱に基づきまして、事業費の35%以内を市の単独費で補助しております。

多面的機能支払交付金の負担割合は国50%、県25%、市25%となっており、原則、地元負担はないものとなっております。

大規模な整備の1つに農業水路等長寿命化・防災減災事業があり、負担割合は国50%、県14%、市及び地元負担が36%となっております。以上です。

○議長（中山和夫君） さらに質問ありますか。工藤孝弘議員。

○2番（工藤孝弘君） 地元負担軽減のため、引き続きよろしく申し上げます。

農業用排水路の老朽化に対する効率的な保全・更新対策等については、地元管理者が対応しています。そして、農業の機能を確保しながらも、生活排水の流入により、非農業用や他目的にも利用されております。

そこで、六ツ野平曾根地区の排水路は、多くの生活排水が流れ込んでいることから、市が整備に関わるべきと考えますが、見解を伺います。

○議長（中山和夫君） 経済環境部長 飯尾克彦君。

○経済環境部長（飯尾克彦君） 六ツ野平曾根地区の排水路につきましては、茂原市排水基本計画の幹線排水路に位置づけられており、整備を実施するには多額の費用を要しますが、市において整備を進めていかなければならないと考えております。以上です。

○議長（中山和夫君） さらに質問ありますか。工藤孝弘議員。

○2番（工藤孝弘君） 力強い御答弁ありがとうございました。ぜひ市で整備のほうをよろしくお願ひし、次の質問に移ります。

次に、歩道の整備について質問いたします。整備箇所の選定については、茂原市通学路安全推進会議の報告の中で選定し、検討しながら整備を行っているとの御答弁でした。では、茂原市通学路安全推進会議において、直近の歩道の整備要望件数について伺います。

○議長（中山和夫君） 中村教育部長。

○教育部長（中村一之君） 今年の8月に開催された茂原市通学路安全推進会議において報告された歩道に関わる要望件数は55箇所ありますが、そのうち、歩道の新規設置要望は15箇所となっております。

○議長（中山和夫君） さらに質問ありますか。工藤孝弘議員。

○2番（工藤孝弘君） 歩道に関わる要望件数55箇所のうち、歩道の新規設置要望は15箇所と

のことで、早期に整備するようよろしくお願いいたします。

次に、先ほどの答弁で、歩道の整備については、優先性や緊急性、必要性を総合的に判断することですが、茂原警察署南側の市道3級7448号線の早野新田区域については、歩道が整備されておりません。当該箇所については、通行車両が多く、特に朝夕の通勤・通学時の歩行者が危険な状況にあると考えております。歩道の整備を行うには、住宅地が近接していることから、用地の取得に時間と費用がかかると思います。

そこで伺います。JR高架線の下を利用することで歩行者の安全が確保できると考えますが、見解を伺います。

○議長（中山和夫君） 都市建設部長 渡辺修一君。

○都市建設部長（渡辺修一君） 未利用地であるJR高架下を歩道として利用することにより、車道と分離することができ、歩行者の安全が確保できると考えられます。今後、JR東日本千葉支社と協議を進めてまいりたいと考えております。

○議長（中山和夫君） さらに質問ありますか。工藤孝弘議員。

○2番（工藤孝弘君） 前向きな御答弁、ありがとうございました。茂原駅から茂原警察署までの線路沿いの歩道整備は、防犯、安全対策など、これまで整備が進められてきています。さらに、延長線上の線路沿いの早野新田、東部台までの歩道を整備することで、地域一帯で、さらに安全で利用しやすい道路が実現できると考えます。歩道整備については、多額の費用を要することは十分把握しておりますが、安全確保に向け、早期に協議していただき、整備できるよう要望し、次の質問に移ります。

次に、デジタルトランスフォーメーション（DX）について質問いたします。自治体DXについては、国から示された推進手順書を参考にDX推進基本方針を策定されるとの御答弁でした。他の自治体に遅れることなく、ぜひデジタル化を進めていただきたいと思います。

このデジタル化を進めるためには、職員の資質やスキルの向上が欠かせないと思います。そこで、デジタル化に向け、職員の資質向上についてお聞かせください。

○議長（中山和夫君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） デジタル化に向けた職員の資質向上につきましては、茂原市人材育成基本方針において、求められる職員像の1つとして、確かな時代認識の上に立って制度や施策を企画し、責任を持ってそれらを実行できる職員を描き、職員が身につけるべき能力の1つとして、情報を主体的に取り入れ、取捨選択し、自ら発信する情報処理能力を掲げております。こうした能力を身につけることができるよう、自己啓発を推進するとともに、職員研修を

積極的に実施してまいりたいと考えております。以上です。

○議長（中山和夫君） さらに質問ありますか。工藤孝弘議員。

○2番（工藤孝弘君） デジタル化を進める上で、職員の資質向上は大変重要であると思いますので、ぜひ積極的に進めていただきたいと思います。これは要望です。

次に、行政手続のオンライン化について質問いたします。昨今の新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ますと、住民が市役所に来なくても手続が済ませられる行政手続のオンライン化が喫緊の課題であると考えます。そこで、行政手続のオンライン化の現状と課題についてお聞かせください。

○議長（中山和夫君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） 行政手続のオンライン化につきましては、マイナンバーカードを利用するマイナポータルから本人を認証した上で行政手続を行うことができますが、現在のところ、本市で利用できるのは不在者投票用紙の請求の1手続となっております。

課題といたしましては、本人認証など、セキュリティの確保が重要となることから、今後は市民の皆様に対するマイナンバーカードの普及促進に努めるとともに、各部署におけるマイナポータルの活用を支援してまいりたいと考えております。以上です。

○議長（中山和夫君） さらに質問ありますか。工藤孝弘議員。

○2番（工藤孝弘君） 行政手続のオンライン化にはマイナポータルの利用促進が必要との御答弁ですが、それでは、マイナンバーカードの最新の交付率についてお聞かせください。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 令和3年9月1日時点のマイナンバーカードの交付率は34.6%でございます。以上でございます。

○議長（中山和夫君） さらに質問ありますか。工藤孝弘議員。

○2番（工藤孝弘君） マイナンバーカードの交付率が3割強との御答弁でしたが、では、マイナンバーカードの交付率を高めるため、どのような取組を行っているのかお聞かせください。

○議長（中山和夫君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） マイナンバーカードの交付率を高めるため、広報や市公式ウェブサイトへの掲載、ポスターやリーフレット等の掲示に加えて、全国のコンビニエンスストアで住民票などの各種証明書の取得ができるコンビニ交付サービスの周知に努めておるところでございます。また、マイナンバーカードの交付を希望する市民には、市民課窓口においてパソコンを使用したオンライン申請の補助を行っております。以上です。

○議長（中山和夫君） さらに質問ありますか。工藤孝弘議員。

○2番（工藤孝弘君） 広報や市公式ウェブサイトへの掲載、コンビニ交付サービスの周知等の取組を行っているということで、引き続きマイナンバーカードの普及啓発に努めていただきたいと思います。これは要望です。

次に、テレワークについて伺います。感染症対策と働き方改革などの観点から、テレワークを取り入れる企業、団体等が増えていますが、市の窓口のように、個人情報取り扱いや住民対応の部分でテレワークを導入することが難しい職場も少なくないと思います。そこで、市におけるテレワークの現状と課題についてお聞かせください。

○議長（中山和夫君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） テレワークにつきましては、庁内のネットワーク強靱化の観点から、総合行政ネットワークとインターネット系を物理的に分離しており、外部から庁内のネットワークに接続することが難しいのが実情でございます。今後は、テレワーク環境について、費用対効果を勘案しながら、導入に向けて調査研究に努めてまいります。以上です。

○議長（中山和夫君） さらに質問ありますか。工藤孝弘議員。

○2番（工藤孝弘君） テレワークがネットワーク接続の面で難しいことは分かりました。これは要望ですが、テレワークは、感染症対策と働き方改革の面から重要だと思いますので、導入に向けて、積極的に検討していただきたいと思います。

最後に、地域のデジタル化について伺います。行政側だけがデジタル化しても、それを利用する住民側が活用できなければ、私は意味がないと思います。ワクチン予約の際に、デジタル機器が苦手という高齢者が予約するのに苦労したという話も聞きました。そこで、地域のデジタル化をどのように進めていくのか伺います。

○議長（中山和夫君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） 地域のデジタル化につきましては、自治会やPTAなどの地域コミュニティがリモート会議などを円滑に実施できるよう、プロジェクターや音響機器などのデジタル化に対応した貸出用備品の整備に努めております。また、携帯電話ショップの店員や大学生などが指導者となり、デジタル機器の苦手な高齢者などに対してスマートフォンの使い方教室などを開催するデジタル活用支援員を政府が提唱しておりますので、そのような制度の有効活用も視野に入れながら、調査研究に努めてまいります。以上です。

○議長（中山和夫君） さらに質問ありますか。工藤孝弘議員。

○2番（工藤孝弘君） 御答弁ありがとうございました。デジタルトランスフォーメーション

(DX)は、デジタル技術を活用し、住民の利便性の向上と行政側のコスト削減の両方に大いに資するものだと考えています。常に利用する側の住民目線に立ち、デジタルの活用によって行政サービスのあり方を変革していただけるよう要望し、次の質問に移ります。

次に、富士見公園の整備について質問いたします。野球場と庭球場の整備方針は公園施設長寿命化計画の中で検討していくとのことですが、では、野球場と庭球場の修繕や改善等について、利用者からどのような要望が出されているのか、内容についてお聞かせください。

○議長(中山和夫君) 都市建設部長 渡辺修一君。

○都市建設部長(渡辺修一君) 野球場の利用者からは、スタンドやスコアボードなどの施設の老朽化による改修や、グラウンドの水はけの改善などの要望がございます。庭球場の利用者からは、観覧席の屋根設置や、クレイコートから人工芝コートへの改修などの要望がございます。

○議長(中山和夫君) さらに質問ありますか。工藤孝弘議員。

○2番(工藤孝弘君) では、利用者からの要望に対する対応状況についてお聞かせください。

○議長(中山和夫君) 都市建設部長 渡辺修一君。

○都市建設部長(渡辺修一君) 野球場は、施設内の軽微な修繕やグラウンド内の盛土整地などの対応をしておりますが、施設の改修整備やグラウンドの排水整備及び庭球場の施設やコートの改修整備等につきましては、今後策定する公園施設長寿命化計画の中で検討してまいりたいと考えております。

○議長(中山和夫君) さらに質問ありますか。工藤孝弘議員。

○2番(工藤孝弘君) 利用者からの要望に対し、できる限りの対応をよろしくお願いします。

次に、庭球場については、現在、クレイコートとなっております。砂入り人工芝にすることで使用や管理がしやすくなると聞いておりますが、整備計画について見解を伺います。

○議長(中山和夫君) 都市建設部長 渡辺修一君。

○都市建設部長(渡辺修一君) 公園施設長寿命化計画の中で今後検討してまいりたいと考えております。以上です。

○議長(中山和夫君) さらに質問ありますか。工藤孝弘議員。

○2番(工藤孝弘君) スポーツは心身の健康の保持増進にも重要な役割を果たすものであります。超高齢化社会を迎える中、スポーツや運動を通じて、あらゆる世代の健康づくりを進めていくことは重要な施策の1つであると考えております。誰もが健康でいられるまちづくりを進めていく上でも、整備のほう、よろしく願いいたします。

最後に、野球場と庭球場の利用者から、トイレの整備を実施してほしいと意見を聞いております。そこで、野球場のトイレや庭球場のクラブハウス内のトイレについて、早急に整備が必要と考えますが、見解を伺います。

○議長（中山和夫君） 都市建設部長 渡辺修一君。

○都市建設部長（渡辺修一君） 富士見公園内のトイレは、5箇所のうち3箇所は野球場と庭球場の管理事務所内に設置しておりますので、これらの施設改修と併せて、単独トイレ施設も含め、洋式化や浄化槽等の改修を、公園施設長寿命化計画の中で、優先順位を検討した上で行ってまいりたいと考えております。

○議長（中山和夫君） さらに質問ありますか。工藤孝弘議員。

○2番（工藤孝弘君） 私は、コロナ禍における環境整備として、衛生面から、国の補助金を活用して、トイレの整備を早急に行う必要があるものと考えております。ぜひ御検討をよろしくお願いいたします。

今回、市議会議員となり、初めて質問させていただきました。拙い質問等であったと思いますが、私は、災害に強いまちづくりに向け、災害が発生しにくいまちづくりを進めるだけでなく、災害発生時における被害を最小限にとどめることも重要と考えております。また、全ての人が多様な学習活動や文化活動、スポーツ活動に取り組んで、生活を楽しみ、人と人との活発な交流が生まれるまちづくりも必要と考えております。

今後は、誰もが安全で安心して暮らせるまちづくりの充実と、健康で生きがいのあるまちづくりの推進を目指し、活動に取り組んでまいりたいと考えておりますので、御協力をお願いいたします。

以上で私の一般質問を終わりにいたします。ありがとうございました。

○議長（中山和夫君） 以上で工藤孝弘議員の一般質問を終わります。

ここで、しばらく休憩します。

午後 1 時 46 分 休憩

————— ☆ ————— ☆ —————

午後 1 時 55 分 開議

○議長（中山和夫君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

質問者であります横堀喜一郎議員より、一般質問に関する資料の配付の申入れがありましたので、これを許し、お手元に配付しました。

それでは次に、横堀喜一郎議員の一般質問を許します。横堀喜一郎議員。

(4番 横堀喜一郎君登壇)

○4番(横堀喜一郎君) こんにちは。薫風もばらの横堀喜一郎でございます。茂原市議会初登壇で少々緊張しております。ただ、今朝もっと緊張する場面がありました。皆さんも緊張したと思いますが、ウイルス検査の結果が出るまで、大変な緊張であります。鼻の中に綿棒を突っ込み、それを試薬に入れ、検査結果が出るまで十数分。その間、非常に皆さん緊張したと思いますが、それを無事くぐり抜けてこの場におられる、それは本当によかったと思います。

我々市議員が率先してコロナ対策をする、その表れとしてウイルス検査をするというのは非常に勇気があり、また、前向きなことであろうと思います。ぜひ市民に対してこのような姿勢を見せながら、このコロナウイルスの中を乗り切っていきたい、そう思っております。

このような新しい取組、また、これだけではなくて、この夏から茂原市の取組もいいなと思ったのが、防災無線が男性の声で流れていることがしばしばあると思います。私、あの男性の声がとても聞きやすくいいな、力強く緊張感を呼び起こしてくれる。それまでやっていた女性の声が悪いというわけではありませんが、男性の声が耳に響く人、それは私だけではなく、私の友人も「これ、いいね」というふうに言っていました。やはりこのようないろんな方が放送に携わり、皆さん、より多くの方が聞きやすい、そんな幅を広げられるように、担当部署におかれましては、いろんなアナウンサーを要請していただき、その声が市民に届くような御努力を今後とも継続していただきたいと思っております。

前置きはこの辺にして、本論の質問に入ってまいります。市当局におかれましては、前向きなる御答弁、よろしく願いいたします。それでは、質問に入らせていただきます。

まず、コロナ関連情報公開についてです。緊急事態宣言真ただ中の今、我々、茂原市民は毎日のように、新規感染者が増えているとか、入院したくても空き病床が不足しているとか、自宅療養中に症状が悪化する等のコロナへの不安をかき立てる情報に数多く接しています。そして、それを後押しするように、茂原市民の新規感染者数も毎日10名から20名の数で増えており、確かに不安は大きくなっている、こんな感じがいたします。

しかし、不安で恐れているだけではいけません。この不安感を拭い去るためには、新型コロナに対する正しい知識をたくさん学んで、新型コロナを正しく恐れることが大切だと思っております。新型コロナに関する正しい情報、それは病気としての特徴や治療方法、統計的に見た患者数の動向、コロナの影響で仕事や生活に困った場合の救済方法などなど、多くの情報を市民が知ることによってのみ不安、恐怖を乗り越え、正しく恐れることができると思っております。ですから、茂原市当局におかれましては、市民に対するコロナ関連情報発信にもっと力を入れ

ていただきたく、本日の一般質問がそのきっかけになることを願っております。

新型コロナに関する情報は千葉県が全て握っているから、茂原市ではコロナに関して情報が出せないと、茂原市当局の言う理由は分からないでもありません。部外秘情報を勝手に流すわけにはいきません。しかし、工夫の仕方によっては、千葉県が発信した情報を、また、厚生労働省が発信する情報をいち早く、分かりやすく市民に伝えることができるのではないのでしょうか。

議長の許可をいただき、8枚の資料を配らせていただきました。資料1から3は、茂原市コロナ関連情報のホームページを上から下まで印刷したものです。資料4は、9月2日時点のコロナ感染者状況の内訳。資料5は、千葉県コロナ情報のホームページから、療養先ホテルの名称と療養者数の内訳。そして、資料6から7は、いすみ市のコロナ感染情報の特設ページの印刷です。資料6と7は、拡大の倍率が異なるので見づらいますが、資料6の下に資料7が続いている、そんな配置になっています。また、資料8については、後ほど御説明いたします。

8月末時点でこの質問を作成するとき、私はまず資料4のデータを探しました。丸印で囲ったところを御覧ください。現時点で感染者がどのくらいいて、そのうち何人が入院しているかが分かります。9月2日時点で感染者が709名、退院者が550名、死亡者は若干いるかもしれませんが情報はなくて、カウントしていません。差引き159名が何らかの治療中であります。

今は少し下火になりましたが、8月中は連日10から20名の感染者が出る中で、入院、すなわち中等症以上の患者が16名、感染者全体の約1割になります。そして、ホテル療養者、これは軽症ですが、18名。入院・ホテル療養調整中、これはさらに軽症の方ですが、2名おられること。ざっくりな表現ですが、感染者の約8割が軽症以下で自宅療養であることが分かります。大まかですが、コロナ感染者の全体像を理解すること、これはコロナへの恐怖を軽減する重要な対策になります。

8月6日の読売新聞の記事によれば、東京都のコロナ感染入院平均日数は、5月25日の緊急事態宣言解除以降、短くなりました。5月25日以前は平均で21.4日だったものが、それ以降は7.9日に短縮になりました。政府は、退院基準を緩和したことに加え、重症化リスクが低い若年層の感染者が増えていることも影響しているとのこと。同様に、ホテル療養の軽症者も平均8.2日から4.4日に短縮になったとのこと。この東京都のデータから想像する限り、中等者、無症状患者は平均で4日から8日で退院、療養解除になっている状況と言えます。以上のような大まかな数値でいいから全体像を理解すること、これはコロナに対する市民の不安払拭につながるものと思います。

この質問原稿を作成した当時、茂原市ホームページから資料4に行き着くまで、多くの時間を要しました。資料1の丸印で囲ったところを探すことに時間がかかったからです。本日配付した資料は、9月3日の最新版のものでございます。更新前の8月末の時点で、このホームページの構成は、資料2にあります田中市長の8月5日付の動画が最初であり、その下に資料3が続き、それから、この感染者発生状況がその下にあったというところで、非常に探すのに苦労した次第です。今ではそれを一番上に持ってきていただきました。ここをクリックすると資料4が見られるようになっていて、情報が探しやすくなっています。さらに、資料5のホテル療養者データにたどり着くまでは苦労した次第です。具体的なホテル名を公表し、療養者数を公表していることを、私はお恥ずかしながら知りませんでした。今回のこの原稿作りで初めて知った次第であります。また、資料6はいすみ市のコロナ情報特設ページで、資料7はまさに私が探し求めていたデータが一番上に出ているという状況でございます。

そこで質問ですが、茂原市当局は、資料1から3の茂原市ホームページが市民に分かりやすいコロナ情報の発信になっているのか、その内容についてお伺いいたします。

続きまして、ワクチンの接種対策についてお伺いいたします。新型コロナウイルスとの戦いは長期戦となりそうです。ウイルス感染予防としてのマスク着用、手洗い、3密防止など、基本的行動の徹底とワクチン接種促進による発症予防、重症化予防を徹底することが肝要です。単純で地味な対策だからこそ、守り続けること、そして徹底することが難しい現実は皆さんも御存じのとおりです。

さて、これからは茂原市におけるワクチン接種進捗についてお伺いいたします。千葉県ホームページ9月5日版によると、直近の1週間、年代別新規感染者の比率は、20代で24.1%、30代で15.9%、40代で16.1%、50代で13.1%。このように20から50代の社会活動が活発な方々が多く感染している状況です。

そこで質問いたします。1つとして、65歳以上、64歳から40歳まで、39歳から19歳までの3つの世代別のワクチン接種進捗状況はどうなっているのか。

2つとして、茂原市在住の妊婦、これは母子手帳をお持ちの方ですが、ワクチン接種状況はどうなっているのか。

9月から新学期が始まりました。小中高校生が学校で感染し、その家族が感染、そして感染爆発することが懸念されます。そこで、学校における集団接種の質問になります。

ファイザー社製のワクチンの接種年齢が16歳から12歳以上に引き下げられたことを受け、中学生や高校生への接種が現実味を帯びてきました。しかし、中高生を対象にしたワクチンの学

校集団接種については、文部科学省は6月22日の通達で、中学校、高等学校、特別支援学校の中等部・高等部における生徒に対する集団接種は推奨しないとの考えを伝えました。これを受けて、県教育委員会も集団接種には積極的とは言えない状況です。しかし、地域の事情により、市町村がその必要性があると判断した場合には、学校集団接種が可能だとしています。

お隣、睦沢町も先日の9月5日、12歳から18歳を対象にワクチン接種を開始しました。市町村の判断により、中学生、高校生の集団接種実施を決めることができます。

そこで、茂原市教育委員会直轄の小学校、中学校で生徒に対する集団接種をすべきと思うが、どうか。

少し脇道にそれますが、この集団接種について、私は先日、9月1日消印でこんなお手紙、ピンク色のかわいいお手紙をいただきました。差出人を見ると、「茂原市中高生ワクチン難民」という差出人になっています。文章、中身を少し披露しますと、「私は茂原市の高校3年生で、受験を控えています。茂原市を含む長生郡市の中高生に対するワクチン接種が本当にひどいです」。このように、ワクチンを早く打ってほしいと要望する文書でございます。「長生郡市の中高生がいまだにワクチン接種できない問題を次の市議会で取り上げてください。いつ打てるのか不安な気持ちで電車に乗っています。どうかよろしくお願いします」。このような内容でございました。

これを受けて質問させていただきますが、さらに高校生に対しても、その直轄である千葉県教育委員会に対し、茂原市内県立高等学校生徒に対する集団接種を要望すべきと思うが、市の見解をお伺いいたします。

続いて、水害対策についてお伺いいたします。過去30年に4度も浸水被害が発生した一宮川において、一宮川流域浸水対策特別緊急事業が行われています。何度も水害被害に見舞われた方々の苦しみやつらさにお見舞いを申し上げるとともに、水害対策事業をこれまで推進された皆様の御努力に敬意を表させていただきます。また、特に市の職員の皆様におかれましては、平成25年、また、令和元年におかれましても、水害翌日から被災地を訪ねて、被災者の方から被害状況を聞いて回ったその御努力、御苦勞に敬意を表させていただきます。本当にありがとうございます。

水害に見舞われるたびに対策事業が実施されてきました。この水害対策事業の基準に関して、分かりにくいことがあります。毎回のように使われる言葉ですが、「前回、〇〇豪雨と同規模の降雨に対して」という言い方です。今回も「令和元年10月豪雨と同様の降雨に対して浸水被害ゼロを目指す」との目標が示されています。ここで使われる同規模の降雨という言葉が分か

りにくく、私は理解に苦しみ、また、あまり使いたくはありません。

県担当部署であります一宮川河川改修事務所の発行の一宮川流域通信という広報紙、その第5号によりますと、県内河川において20年から30年間で計画的に実施する河川整備の目標である年超過確率10分の1の降雨（一宮川上流域で時間最大雨量50ミリ、一宮川流域平均で時間最大30ミリ程度）とあります。しかし、令和2年1月31日の河川整備課の文書には、令和元年10月25日未明からの大雨により、一宮川上流に位置する長柄町水上で時間雨量77ミリ、3時間雨量204ミリと、観測地点最高値を記録したとあります。さらに、8月20日に行われた茂原市水害対策特別委員会において、担当者からは、水害発生当日、茂原市計測の1時間最大雨量は88ミリであったとの発言もあります。

このように、千葉県や茂原市の担当部署・部局から、同規模の降雨がばらつく中、茂原市民には、分かりやすい基準として、同規模の降雨とはどの程度の降雨なのか、計画なのかということをお伺いいたします。

続いて、内水対策についてお伺いいたします。茂原市は、災害時には地域防災計画に従って行動をします。その第3編に、風水害編として、水害発生時に関係機関が担うべき業務を網羅的にかつその具体的な運用を記載してあります。

今年も9月に入り、風水害の発生しやすい季節になりました。茂原市内を流れる一宮川本線。そして、その支流である豊田川、阿久川、鶴枝川。また、本納地区を流れる赤目川はこれまでも何回も越水を起こし、周辺の方々を苦しめてきました。二級河川であるこれらの管理責任者は千葉県です。千葉県は、氾濫しないよう河川管理をしなければなりません。そして、茂原市は二級河川につながる準用河川の河川管理が業務です。

話は少しそれますが、この9月議会において、鷲巣稲荷前水門工事、また、早野排水機場ポンプ工事の2つの排水機場工事に関する議案が提案されています。これは当該地区の内水氾濫を防止する上で大変重要な工事であります。茂原市の防災レベルを向上させる重要な議案であり、議員各位の全会一致で可決されるよう、私からもお願いするところでございます。

さて、話を元に戻しますと、これから迎える出水期において、内水対策の基本となる水門管理について質問させていただきます。まず、市内を流れる河川において、茂原市が管理する水門は幾つあるのか。一宮川本線・支線、赤目川、準用河川ごとに教えてください。

また、内水排水の重要な役割を担う排水機場の維持管理はどのように行われているのかをお伺いいたします。

最後に、交通安全対策についてお伺いします。本年6月28日、八街市内での事故については、

皆様御存じのとおりです。亡くなられた児童の御冥福をお祈りするとともに、負傷された方々の一日も早い回復をお祈りいたします。

この事件では、第一義的には容疑者のトラックドライバーの飲酒運転が原因であり、飲酒運転という違法行為が白昼堂々で行われるドライバーの常識が疑われます。残念ながら、千葉県ではいまだ飲酒運転が後を絶たない現状です。それ以外にもスピード違反、無理な追い越し、ドライバーの運転マナー向上が大きな課題です。

また、第二義的には、道路事情の問題です。八街の事故現場は歩道がありませんでした。また、道路の指定速度は時速60キロ。8月13日からは30キロに変更になりました。事故現場付近には、約800メートルの歩道と車道を分けるための白線が引かれました。しかし、白線を1本引いただけでは車の進入は防げません。大切なことは、抜本的な対策として、歩道の設置や道路拡幅等の道路インフラ整備や、車両自体の進入規制等の交通規制強化になるべきだと考えます。

今回の質問では、後者の道路インフラ整備と交通規制強化についてお伺いします。幸いにも、茂原市では近年、同様の事故はありませんが、我々大人は、今後とも児童生徒の交通事故防止へ絶えざる努力が必要と思っております。

現実の課題として、道路インフラ整備には時間と費用がかかります。特に、市街地においては、道路拡幅には周辺土地確保が欠かせませんが、道路用地取得の費用や、地権者同意を得ることに大変な費用と労力がかかります。そこで、より手近な対策として、通学路周辺道路に対する交通規制を検討すべきであろうと考えます。

そこで、私が交通規制を検討すべきと思う2箇所についてお伺いします。本納中学校西側道路及び富士見中学校東側農道について、時間帯による進入規制が必要と考えるが、茂原市はどのように考えるのか。

また、茂原市学校再編審議会では、早野中学校と南中学校の統合が審議されています。私個人的には、統合することに賛成です。中学生の健全なる成長のためには、多くの仲間と切磋琢磨すること、多様な部活動を選択でき、その活動を通して成長できるメリットが大きいと思います。

そこで、統合議論を進める上での懸案事項の1つである通学の安全確保についてお伺いします。早野中学校・南中学校の統合に向けて、通学路をどのように検討しているかお伺いします。

最後に、通学路の交通規制という点では、ゾーン30にも注目しています。ゾーン30とは、区域（ゾーン）を定めて、速度30キロの速度規制を実施するとともに、その他の安全対策を必要

に応じて、ゾーン内における車の走行速度や通り抜けを抑制するものです。そこで質問ですが、茂原市内の学校周辺の通学路において、ゾーン30の実施状況はどうなっているのか。

以上が1問目になります。御答弁よろしくお願いたします。

○議長（中山和夫君） ただいまの横堀喜一郎議員の一般質問に対し、当局の答弁を求めます。
市長 田中豊彦君。

（市長 田中豊彦君登壇）

○市長（田中豊彦君） 横堀喜一郎議員の一般質問にお答えさせていただきます。

私からは、まずワクチン接種対策についての中で、妊産婦のワクチン接種進捗状況についての御質問でございますが、その前に、ちょっと全体的な話をさせていただきますと、9月6日、県の平均で接種率が出ております。1回目が50.8%、2回目が39.8%。茂原はどうかというと、これは9月6日現在ですが、茂原市は58.7%、これが1回目でございます。それから、2回目が46.7%。県の平均よりはかなり上回っているということだと思っております。恐らく、この調子でいきますと、6割か7割ぐらいはすぐ行くんじゃないかと思っております。

それから、妊産婦のみの接種状況ということでございますが、妊娠届を提出されている方、約200人に対しまして、8月20日付で予約開始の御案内と妊婦のワクチン接種に対応可能な医療機関の一覧を送付いたしておるところであります。20代、30代の一般の方の予約開始日より前に接種勧奨をすることで、優先的に接種予約ができるよう対応したところがございます。

茂原市内、作永さんと育生さんがございますが、作永さんのところでは、自分のところで接種できるということでございます。育生さんに関しましては、今言ったように、医療機関に行きワクチン接種をしていただくと、こういう話になっておりまして、それぞれの妊婦さんにはそういうようなことで、行っていただくようにという話はしているそうでございます。それが妊産婦の話でございます。

次に、今後の小中学生、できれば高校生までを含めた集団接種が必要と思うが、市の見解はどの御質問でございますが、これはちょっといろいろな問題がございます。中学生、何でもかといえますと、睦沢はやっていますけども、あれは「やっていいですか」と言うから、「どうぞやってください」と言いましたけど、1つはやっぱりいじめの問題があるんですね。打ったか、打たないか。これがやっぱり学校、恐らく教育関係では非常に中で心配している事案だと思っております。県もあまり推進しないというか、進められないというか、集団接種はですね。こんなような話をしております。

実際に、高校3年生については、実を言いますと、この間、県の教育長に会ってきたところ

で、聞きましたら、3年生についての集団接種は、県としては実施を予定していないというところでもあります。ただ、長生郡市のワクチン接種については、これまで個別接種を中心に進めてきたところでもあります。これは国からの指示がありまして、65歳以上、それから段階を踏んでやっていきなさいと、こういう指示だったものですから、それに沿った形でワクチン接種をしてきたわけでございます。ここにきて若い世代が感染拡大していると、デルタだと、こんなような話になってきておりますので、それ、茂原はどうなんだという話をいろんなところでやっぴりされるわけですね。

それで、医師会と、とにかく接種については話を進めないで、右から左というわけにいきませんので、医師会との協議の中で、ついこの間、本地域での接種を、中高生をやりたいから協力していただきたいという話をしたところでもあります。その中で、高校の場合は県立なものですから、ちょっと外させていただいて、中学生までという話の中で、一応、とにかく集団接種をやりたいとこちらのほうからもお願いしまして、まず受験生ですね。中学3年生を対象に、9月26日日曜日、それが1回目。それから、2回目の接種が10月17日日曜日。これは中学3年生対象でございます。受験生をまず第一にということで、先行してやらせていただくということでもあります。それから、10月2日土曜日、10月23日土曜日。これは16歳から64歳までの年齢層を広げております。高校生も含めてですね。それから、10月3日、10月24日。これ、日曜日ですが、12歳から14歳。それから、10月9日、10月30日。これが16歳から64歳と、集団接種をやるということで決めております。

したがって、恐らくこの中にも高校生は入ってくると思いますが、それでもちょっとやっぴり心配なので、高校3年生だけを対象にした、受験生ですね。受験生って、申し訳ないですけど浪人している方もいらっしゃるし、いろんな方がいらっしゃるの、そういう方たちもできるだけ対象にしたいんですが、一応、選別できるのが高校3年の、年齢層だけの選別しか今できないものですから、そういう方たちには事前に、今、これも個別の、医師会とちょっと最後の詰めをやっていますけど、できればこれもやりたいなということで、やらせてもらおうかなと思っています。

ここまでやっているところ、ほかには多分ないと思いますが、県内では。ただ、やっぴりこのいじめの問題がちょっと心配でございまして、教育のほうではその辺をかなり心配しておるところでもあります。接種スピードを上げる必要があると判断しておりますので、こういう形で小中学生を中心とした集団接種もやらせていただくかなと思っていますが、どうか皆さん方には、いじめにつながらないように、ひとつよろしくお願ひしたいと思っています。

私からは以上でございます。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

（市民部長 田中正人君登壇）

○市民部長（田中正人君） 市民部所管に関わります御質問に御答弁申し上げます。

初めに、コロナ対策の中で、市のホームページが分かりやすい情報発信になっているのか、その内容についてとの御質問でございますが、現在、市公式ウェブサイトでは、緊急情報として、「新型コロナワクチン接種予約について」と「新型コロナウイルス感染症に関する情報」を発信しており、この2つの見出しから知りたい情報を検索していただく構成となっております。

これまでは情報を迅速にお知らせすることに努めてまいりましたが、その結果、情報量が多くなり、内容の見にくさや検索のしにくさが生じていることは認識しております。そのため、現在、掲載方法の見直しや情報の整理など、改善を図っているところでございます。

次に、ワクチン接種対策の中で、世代別のワクチン接種の進捗状況についての御質問でございますが、ワクチンの接種状況につきましては、9月5日現在で、65歳以上の高齢者の接種率が、1回目85.8%、2回目83.9%でございます。希望される方への接種はおおむね終了したものと理解しております。また、40歳から64歳の方は、1回目57.6%、2回目31.9%となっております。なお、接種履歴の集計システムが5歳刻みの集計となることから、19歳から39歳ではなく、20歳から39歳となりますが、1回目が25.9%、2回目が17.7%でございます。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 都市建設部長 渡辺修一君。

（都市建設部長 渡辺修一君登壇）

○都市建設部長（渡辺修一君） 都市建設部所管に関わります御質問に御答弁いたします。

最初に、水害対策についての御質問で、河川改修計画の中で、現在、一宮川で進めている河川改修工事について、どの程度の降雨に対応できる計画なのかとの御質問ですが、県では、茂原市街地において、令和元年10月25日と同規模の降雨に対して、河川から越水を生じさせない河川改修工事を行っていると同っております。

なお、令和元年10月25日の降雨は、中流域の長生土木事務所の雨量は時間最大40ミリ、3時間最大90ミリであったが、上流域に位置する長柄町水上で時間最大雨量86ミリ、3時間最大204ミリと、短時間で強い降雨となったため、甚大な浸水被害となりました。

次に、内水対策の中で、市内を流れる河川において、市が管理している水門は幾つあるのか

との御質問ですが、市が管理している水門は全部で24か所でございます。内訳としましては、一宮川で11か所、阿久川で10か所、豊田川で2か所、赤目川で1か所。準用河川につきましてはございません。

最後に、市が管理している排水機場の維持管理はどのように行われているのかとの御質問ですが、職員による定期的な見回りを行うとともに、毎年、出水期前までに各排水機場の設備点検を委託しております。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 教育長 内田達也君。

（教育長 内田達也君登壇）

○教育長（内田達也君） 教育関係の御質問に御答弁申し上げます。

通学路の安全について、初めに、本納中学校西側道路及び富士見中学校東側農道について、時間単位による車両の進入規制が効果的と思うが、市の見解を伺うとの御質問でございますが、車両の進入規制につきましては、通学路の安全確保の観点からは非常に有効と考えております。ただ、交通規制は日常生活に少なからず影響を及ぼすため、周辺住民の理解を得るなど、慎重に進める必要があるものと考えております。

次に、早野中学校・南中学校の統合に向けて、通学路をどのように検討しているのかとの御質問でございますが、統合となった際に主要な通学路となることを想定しておりますサトペン交差点から東側約300メートル区間について、道路改良事業を実施しているところでございます。そのほかにつきましては、統合方針が決定した際に、学校等と協議し、危険箇所の把握とその対策に努めてまいりたいと考えております。

次に、市内通学路のゾーン30の実施状況でございますが、西小学区の中中部、道表、東部小学区の東部台の3か所で実施しております。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 再質問ありますか。横堀喜一郎議員。

○4番（横堀喜一郎君） それでは、再質問をさせていただきます。

まず、コロナの情報発信につきまして、健康管理課におかれましては、ワクチン接種をはじめ、コロナ対策に忙しい中、ホームページの見直し、ありがとうございます。先ほど、第1問で申しましたように、速やかに対応していただき、非常に見やすいホームページになっていること、感謝申し上げます。今後とも継続して更新のほどお願いします。

少し方向を変えた質問になりますが、企業や自治体には、そのホームページに、よくある質問、フリークエントリー・アスクド・クエスチョンズ、この頭文字のFAQというページがあります。茂原市にも当然のごとくそのページはあります。私はこのよくある質問の内容が大変

大切であると考えております。なぜならば、よくある質問を作るポイントは、お客様目線にあるからです。お客様目線、すなわち市民の目線で、市民の疑問に先回りして答えようとする姿勢がここに見られるからです。

答弁にあるように、伝えるべき情報はたくさんあることは分かります。しかし、情報があり過ぎるがゆえに、見るほうにとっては何の情報に価値があるのかが分からなくなっていることも事実です。数ある情報から、市民が欲しているものを選んで、市民目線を持って優先順位をつけることが重要であると思います。

そこで、現在の緊急事態宣言の下、茂原市民の不安低減のため、必要としている情報整理をして、どのようなよくある質問を作ればいいでしょうか。5つほど例を挙げてください。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 現在寄せられている問い合わせの中では、ワクチン接種の予約方法や予約開始時期、市内の感染者情報、支援情報、体調を崩した場合の相談先などの問い合わせが多くなっており、市民の皆様が求めている情報であると思われれます。以上です。

○議長（中山和夫君） さらに質問ありますか。横堀喜一郎議員。

○4番（横堀喜一郎君） 御答弁ありがとうございます。おっしゃるように、まさにワクチン接種の予約方法、また、予約の開始の時期、接種券、感染者と相談先等、大変重要な情報であると思っております。ぜひこれらを率先して、そして優先的に情報を発信するようお願いいたします。

また、それ以外にも、市民が感じている必要な質問についてお答えください。いずれも長生広域に関する質問ですが、まず、消防の救急搬送に関して、コロナ感染者で自宅療養されている方が、症状が悪化して、その救急搬送に対応した件数は8月に何件あったのか教えてください。

○議長（中山和夫君） 答弁を求めます。市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 長生保健所に確認いたしましたところ、長生保健所管内で18件、そのうち市内在住の方が10件であったとのことでございます。以上です。

○議長（中山和夫君） 横堀喜一郎議員。

○4番（横堀喜一郎君） それでは、コロナ患者の救急受入れが困難であるという報道をよく聞きます。受入れ決定までの待ち時間がどのくらいかかったのか、8月平均でどのくらいあるのか、分かる範囲で教えてください。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 長生保健所に確認いたしましたところ、受入れ決定までの時間につきましては、感染者の症状や受入先により異なるため、一概に平均は出せないとの回答でございました。以上です。

○議長（中山和夫君） 横堀喜一郎議員。

○4番（横堀喜一郎君） ぜひとも、そういう情報は貴重なものでございますので、今は出せなくても、今後はなるべく計測して、データとして残せるようお願いいたします。

続いての質問になりますが、救急搬送したコロナ感染者はどこの医療機関に何人くらい搬送されているのか。これも出せる範囲、教えられる範囲で結構ですから、御答弁をお願いします。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 県からこうした情報の提供はございません。以上です。

○議長（中山和夫君） さらに質問ありますか。横堀喜一郎議員。

○4番（横堀喜一郎君） それに関して、それでは、地元の公立長生病院において、コロナ感染者の入院治療は可能なのか。また、受入れ可能であれば、受入れ規模はどのくらいなのか。これも教えられる範囲で結構ですので、お答えください。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 公立長生病院における感染者の入院治療の可否につきましては、設備や医療従事者等の充足度などから、病院において判断することとなると思いますが、仮に受入可能であったとしても、医療機関名や規模は非公表とされております。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 横堀喜一郎議員。

○4番（横堀喜一郎君） むしろそこが一番、市民の方は知りたいところなんだろうと思います。8月20日頃ですか、千葉日報で、菅原病院さんが5名患者を受け入れているとの記事がありました。それを見て、私はむしろ地元で入院できるところがあるんだなというのを見て、安心した次第です。確かに、そこに情報が、ここが治療できるよと言うと殺到するという、またデメリットもあるんでしょうが、やはりここで、地元で入院できるという安心感、これが公表できる時期になりましたら、早急に公表をお願いします。これは要望でございます。

続いて、またさらなる要望でございますけれども、個人的には茂原のコロナ関連ページに掲載してもらいたい情報があります。資料8を御覧ください。

これは厚生労働省の「新型コロナウイルス感染症の“いま”に関する11の知識」という、よくある質問のページでございます。その中には、コロナ感染者が重症化するのはどういう傾向なのかとか、治療法はどうするのかとか、あと、感染させやすい時期がある、そういうことを

的確に、分かりやすく書いています。ぜひこれは茂原のホームページにリンクを貼っていただきたいというのがお願いの1点。

あと、もう一つ要望があります。先ほど配付しました資料2にあるように、田中市長の動画、これは8月5日付のもので、もう1か月も経ったものを載っておく必要があるのでしょうか。それよりも、私はもっと重要な情報があると思いました。8月31日に、田中市長が千葉県に対して、新型コロナウイルス感染者の情報を教えてくださいという要望書を出しました。これは地元、長生保健所の負担が増す中で、茂原市も千葉県を手伝って自宅療養者に医療的補助を行いますという申出でございまして、非常に前向きなその姿、そういうことを茂原市はしているよと、そういう情報をぜひ発信していただきたいと思った次第です。ぜひ、この8月31日の情報、たしか新聞にも載っていたと思いますが、その記事を載せて、自宅療養で心配されている方に対して、茂原市からも手伝ってくれるんだ、助けてくれるんだ、そういう助け船を出していただきたい。これもお願いでございます。

今後も、酸素ステーションの設置や治療法の確立など、新たな情報が続々出てくると思います。ぜひ、このような積極的な、そして市民が安心できる情報を早期に、そして継続して発信していただくことをお願いして、次に移らせてもらいます。

続いて、コロナのワクチン接種についての再質問になりますが、全国的な傾向で、若い世代のワクチン接種が必要です。早期にワクチンを届ける必要があります。

再質問として、現役世代は日中時間帯、仕事で連絡がつかない方も多いと思います。夜間、土日の集団接種が有効と思いますが、市の見解はいかがでしょうか、お教えてください。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 今後さらに接種を推進するためには、平日の日中以外の接種の機会を増やす必要があることから、茂原市長生郡医師会等と協議を行い、土曜日、日曜日の日中だけではございますが、12歳以上64歳以下の方について、集団接種を実施することといたしました。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 横堀喜一郎議員。

○4番（横堀喜一郎君） 先ほど田中市長が教えていただいたことに、確認の意味で御答弁ありがとうございます。まず、皆様の集団接種への御努力に本当に感謝を申し上げますとともに、御協力いただいた茂原市長生郡市医師会の先生方には、これも重ね重ね感謝を申し上げます。

そして、じゃ、次の質問になりますけれども、その開始時期、土曜、日曜の集団接種を実施することですが、確認になります、その開始時期を改めて教えてください。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 改めまして、9月26日の日曜日から開始いたしまして、土曜日、日曜日を各4日ずつ、計8日間実施を予定しております。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 横堀喜一郎議員。

○4番（横堀喜一郎君） また、それと、先ほど田中市長が触れました妊産婦についての再質問になりますけれども、妊産婦とその同居される家族の方々への優先接種ができないかをお尋ねいたします。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 先月27日より20代、30代の方の予約受付を始めており、新たに妊産婦の同居家族等のために優先予約枠を設けなくとも、予約枠は確保できているものと考えております。

また、電話で接集予約を受け付けている市内の産科医療機関におかれましては、今後、妊産婦の同居家族等へ接種勧奨をされると伺っておりますので、同居家族等の方におきましても、接種を受けやすい状況にあるものと考えております。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 横堀喜一郎議員。

○4番（横堀喜一郎君） また、先ほど田中市長が触れられましたが、中高生のワクチンの接種についてですが、私も、ワクチン難民さんからの依頼なので、これは欠かせませんので、高校受験、大学受験を希望する生徒、学生には特に優先して接種すべきということですが、これも念のため、その見解をお伺いいたします。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 長生郡市においては、小中学生のワクチン接種を行う医療機関が少ないこともありまして、中学3年生については、1回目接種を9月26日、2回目接種を10月17日とする集団接種を実施することといたしました。高校3年生につきましては、中学3年生に比べ、個別接種を受けることができる医療機関も多く、集団接種全体の枠数にも限りがあることから、独立した予約枠を設けることはいたしませんでしたが、引き続き高校3年生が優先的に接種を受けることができるよう検討してまいりたいと考えております。以上です。

○議長（中山和夫君） 横堀喜一郎議員。

○4番（横堀喜一郎君） 学生等の集団接種の実施場所、これは行きやすい場所であるべきと考えますが、これも確認のため、どこになるのか、茂原市の見解をお伺いいたします。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 長生郡市においては、18歳以下の方につきましては、保護者同伴での接種となっておりますので、駐車場が十分に確保されていることが必要と考えております。このほか、国政選挙の日程なども考慮いたしまして、今回の接種会場は茂原市保健センターといたしました。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 横堀喜一郎議員。

○4番（横堀喜一郎君） どうも御答弁ありがとうございます。そのようなワクチン接種により、小学生、中学生が授業に出られない場合もあろうと思いますが、そのときには出席扱いにすべきと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 出席扱いとはなりません。通常の欠席とは違い、忌引等と同様に、出席しなければならない日数に含まないこととしております。

○議長（中山和夫君） 横堀喜一郎議員。

○4番（横堀喜一郎君） じゃ、最後は要望ですが、これらワクチン接種予約情報等は非常に市民が待ち望んでおる情報ですので、いち早く、ホームページだったら変更できますし、また、防災無線等で御連絡することをお願いし、次の質問に入らせていただきます。

じゃ、水害対策について質問でございます。先ほどは御答弁ありがとうございます。答弁では、令和元年水害では茂原市内、長生土木の雨量計で最大40ミリ、3時間90ミリ。また、上流の水では時間86ミリ、最大204ミリということですが、この河川改修計画は、時間雨量最大86ミリ、3時間最大204ミリの降雨を想定した改修となっているのでしょうか。お答えをお願いします。

○議長（中山和夫君） 都市建設部長 渡辺修一君。

○都市建設部長（渡辺修一君） 県では、令和元年10月25日と同規模の降雨、長柄町水上については、時間最大雨量86ミリ、3時間最大204ミリに対して、茂原市街地において、河川から越水を生じさせない河川改修工事を行っていると同っております。

また、浸水被害が発生した河川などについて、長期的な河川整備の基本方針を定めた上で段階的に整備を行うため、おおむね20年から30年で時間50ミリ相当の降雨に対応した整備を行う計画を策定し、着実に治水対策を実施していると伺っております。

○議長（中山和夫君） さらに質問ありますか。横堀喜一郎議員。

○4番（横堀喜一郎君） それでは、今回の河川の護岸法立て工事が行われていますが、護岸を切り立たせる工事ですけれども、鶴枝川合流点から豊田川合流点までの河川断面が拡大し、

排水能力が高まることは理解できます。しかし、その断面が拡大した分だけで、令和元年水害の降雨に対応できるのか否か、私の理解を超えるところです。そのシミュレーションを公開することは可能なのでしょうか、お教えてください。

○議長（中山和夫君） 都市建設部長 渡辺修一君。

○都市建設部長（渡辺修一君） 令和6年度末までに実施する中下流域の河川整備により、令和元年10月25日と同規模の降雨に対して、第二調節池から下流区間では、一宮川から越水を生じさせない結果であると伺っております。

また、現在、上流域、支川も含めた計画を検討している段階であるため、シミュレーション結果については公開することはできないと伺っております。

○議長（中山和夫君） 横堀喜一郎議員。

○4番（横堀喜一郎君） ちょっと残念な答えですが、ぜひこれについては継続してお聞きしていきたいと思っております。

それでは、次の質問ですが、茂原市は、一宮川河川改修が完成するまでの期間、被災地域の水害対策をどのように考えるのかお教えてください。

○議長（中山和夫君） 都市建設部長 渡辺修一君。

○都市建設部長（渡辺修一君） 短期対策としまして、第二調節池増設の暫定供用や、護岸法立て工事における暫定断面の確保による早期の治水機能の発現を図るとともに、危機管理型水位計や監視カメラの設置によるソフト対策を実施したと伺っております。

○議長（中山和夫君） さらに質問ありますか。横堀喜一郎議員。

○4番（横堀喜一郎君） 次に内水対策に関して伺わせていただきます。令和元年水害の際に、常時変動する水位に合わせた水門の操作はどのように行われていたのかお教えてください。

○議長（中山和夫君） 都市建設部長 渡辺修一君。

○都市建設部長（渡辺修一君） 水門操作は、各担当職員による排水機場の稼働状況、河川の水位及び本川から逆流している状況を確認しながら操作を行ったところでございます。

○議長（中山和夫君） 横堀議員に申し上げます。残り時間が3分となっておりますので、よろしく願いいたします。横堀喜一郎議員。

○4番（横堀喜一郎君） それでは、あとは時間がないので、残りの水害対策は抜かさせていただきます。交通安全対策に入らせていただきます。

先ほどのサトペンさんの道路の改修につきまして、それに合わせて、通学路の自転車レーンの整備等は検討されるのかお教えてください。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 当該路線については、現在のところ、自動車通行レーンの整備は検討しておりませんが、今後、自転車通行量が増加した場合には、通学路の安全対策として、通学路安全推進会議において協議をしていきたいと考えております。

○議長（中山和夫君） 横堀喜一郎議員。

○4番（横堀喜一郎君） 次はソフトに関する質問ですが、交通安全に関しては、生徒に対して交通安全の意識向上が大切だと思いますが、安全教育はどうなっているのかお教えてください。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 生徒の安全を守るためには、安全意識の向上も欠かせないものと考えておりますので、今後ともより一層安全教育、安全指導に努めてまいりたいと考えております。

○議長（中山和夫君） 横堀喜一郎議員。

○4番（横堀喜一郎君） 最後はゾーン30についてお伺いします。今、既に実施の場所もありますが、それ以外に、小学校の中で通行量の多いところとして豊田小、東郷小、鶴枝小もゾーン30を適用すべきと思いますが、市の見解をお教えてください。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） ゾーン30が学校周辺に適用されることは、子どもの安全確保をする上では非常に有効だと考えております。現在、茂原市通学路交通安全プログラムにより抽出された危険箇所及び対策内容としてゾーン30の適用は上がっておりませんが、今後、学校より適用が必要との要望がありましたら、通学路安全推進会議の場で協議をしてまいりたいと考えております。

○議長（中山和夫君） 横堀喜一郎議員。

○4番（横堀喜一郎君） じゃ、最後、まとめになりますけれども、先ほど新型コロナウイルスは長期戦になるという話をさせていただきました。戦いというよりも共生という形を目指すべきであろうと思います。その共生という形のためには社会構造が変わらなければなりません。社会構造の変化と簡単に言いますが、それは、今の方々の仕事がなくなる、また、今の技術が通用しなくなるという痛みが伴う変革になります。茂原市民の方々も少なからずそのような痛み、そして苦勞される方もおられるはずで。

田中市長をはじめ、茂原市当局におかれましては、市民の不安や痛みに寄り添い、共感できるような市政運営をお願いいたします。また、我々市議員といたしましても、それぞれ得意

とする分野、また、地域で市民の声を聞いて行政に反映していきたいと思います。新しい時代の茂原づくりをお手伝いすべく、今後も努力することをお約束申し上げ、今回の一般質問の締めとさせていただきます。御清聴ありがとうございました。

○議長（中山和夫君） 以上で横堀喜一郎議員の一般質問を終わります。

ここで、しばらく休憩します。

午後 3 時 00 分 休憩

☆ ☆

午後 3 時 20 分 開議

○議長（中山和夫君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、河野英美議員の一般質問を許します。河野英美議員。

（3 番 河野英美君登壇）

○3 番（河野英美君） 志友会の河野英美です。本日最後の質問者となります。重複する質問もごさいますが、御了承いただきたく思います。

私は、市民の皆様の御支援により、この 5 月 1 日より茂原市議会議員として働かせていただいております。本日が初めての質問でございますので、よろしく願いいたします。

5 月の臨時議会で、中山議長、田畑副議長の就任の際に、二元代表制という言葉がございました。また、市内の各御家庭に、8 月 15 日発行の茂原議会だよりが配布されました。この議会だよりにおいても、お二人の御挨拶の中に、「二元代表制の一翼を担う市議会といたしましては、市長と常に緊張ある関係を構築し、市政のチェック機能及び政策立案機能を十分に果たすとともに、市民の皆様の声が市政に反映されるよう取り組んでまいります」と書かれておりました。私もこの言葉をしっかりと胸に留め、市民としての視点を忘れず、開かれた議会と透明性の高い市政を目指し、努力してまいりますので、よろしく願いをいたしたいと思います。

それでは、質問に入ります。大きく 4 つの質問がございます。まず 1 つ目は、赤目川・乗川の整備について。2 つ目は、新型コロナウイルス感染症について。3 つ目は、人と動物の共生について。そして 4 つ目は、教育環境についてでございます。

まず、1 つ目の赤目川・乗川の整備について。茂原市では、これまで何度も河川による水害で市民の皆様に御迷惑をかけてまいりました。一宮川付近では大変な被害が出ておりますが、本納地区でも、赤目川・乗川があふれることにより、家屋への浸水や、道路や田んぼへの冠水等が数十年にわたっての深刻な問題となっております。

そこで、赤目川・乗川の用地の買収、工事の概要及び進捗率と今後の取組について。赤目川

については河川整備以外に付帯する施設の整備について具体的に伺います。乗川については、今後どのように整備を進めていくかを伺います。

次に、新型コロナウイルス感染症について伺います。9月3日に、いすみ市は新型コロナの自宅療養者に初期治療を行い、重症化を防ぐコロナ在宅支援センターを設置いたしました。茂原市においても自宅の療養者が増えていると伺っております。

そこで、新型コロナウイルス感染症の患者さんが適切な診療、治療を受けるために、地域の医療体制の構築が求められていると考えますが、市の見解を伺います。

また、これから迎える台風シーズンや、地震が起きた場合に、住民の皆様が避難所で過ごされる可能性も考えられます。災害時の避難所における新型コロナウイルス感染症対策について、市はどのようなお考えをお持ちか伺います。

先ほど、市長から睦沢町のことが、お話がありましたけれども、睦沢町では、5日に12歳から18歳のワクチンの集団接種が行われ、茂原市の医師が予診を担当したということでございます。

茂原市では、若年層のワクチン接種が遅いという御意見をいただいております。そこで、若年層のワクチン接種が遅れている理由と、ワクチンを早く接種したいという方がいらっしゃる一方で、ワクチン接種による中長期的な影響を懸念する声もございます。これに対し、市の見解を伺います。

次に、人と動物の共生について。コロナ禍におけるステイホームにより、ペットを求める家庭が増えております。しかしながら、中には、安易に動物を飼うことで新たな問題が起きることも懸念されております。

地域を悩ませていることの1つに、飼い主のいない、いわゆる野良猫による糞尿の被害、庭や空き家で生まれる子猫たちの扱い、猫が好きな人と嫌いな人との間の餌やりなどのトラブルなどの問題がございます。この猫たちに不妊手術をするなどの管理をして、一代限りの生を全うさせる地域猫という取組がございます。そこで、茂原市における地域猫活動の取組について伺います。

続いて、多頭飼育対策についてでございます。動物の多頭飼育による問題は、メディアやSNSでも壮絶な現場が取り上げられるなど、社会問題化をしております。

今年の3月には、環境省のガイドラインが策定されました。多数の動物を飼育するということは、飼い主の経済的・体力的負担が大きく、適切な給餌、餌やりや給水、衛生管理、繁殖の制限ができず、悪臭や鳴き声など、近隣への迷惑や、また、飼い主の生活と動物の状態の悪化

にもつながります。善意で始めた保護活動者が問題を引き起こしたり、飼い主の入院や急死で世話ができなくなる。また、経済的困窮者や社会的孤立による動物依存などが背景にあり、問題が複雑で、社会福祉分野と行政の各部署の連携が重要となります。

一定数の動物を引き取り、救護したり、一時預かりや譲渡するなどの活動は、ボランティアの協力が必須でございます。そこで、犬猫の多頭飼育について、ボランティアとの連携も含め、茂原市に取組があるのかを伺います。

次に、教育環境についてでございます。今年の6月28日、八街市で児童2人の死亡、1人の重体、2人の重傷者を出す痛ましい事故が起きました。私の友人のお子さんがお二人、この当該小学校へ通っております。重体だったおさんは、9月1日から頑張って学校へ通っているということを伺いました。八街市では、5年前にも登校時に男女4人が重軽傷を負う事故があり、保護者からは何度も通学路の安全対策を求める要望が出ていたと伺っております。

この事故を受け、県から市町村の教育委員会へ通学路の危険箇所の確認が求められ、県内の各地区で行政とPTA、関係機関、中には行政のトップも同行しての緊急点検が行われました。歩行中の低学年の交通事故や、様々な犯罪に巻き込まれる時間帯も登下校時に集中しているとの報告もでございます。

そこで、八街の事故後に、通学路の安全確保のために新たに取組んだことについて伺います。

学校の統廃合などにより、全国に廃校が増えており、文部科学省によりますと、2002年度から2015年度までの廃校数は、全国で6811校とのこと。そこで、茂原市には、利用されていない学校及び保育施設がどれくらいあるのか、また、今後の利活用について伺います。

茂原市でも少子化による学校の再編が行われております。再編については学校再編審議会で審議されますが、学校再編審議会の設置目的と役割について伺います。

以上で私の1回目の質問を終わります。どうか御答弁をよろしくお願いいたします。

○議長（中山和夫君） ただいまの河野英美議員の一般質問に対し、当局の答弁を求めます。

市長 田中豊彦君。

（市長 田中豊彦君登壇）

○市長（田中豊彦君） 河野英美議員の一般質問にお答えさせていただきます。

私からは、まず新型コロナウイルス感染症についての中で、感染症患者が適切な診察、治療を受けるための医療体制の構築についての御質問でございますが、まず、この新型コロナウイルスに対しましては、何度も申し上げておりますけれども、県が把握しておりまして、県の健康福祉

センター管轄と申しましょうか、ということで、市町村にはどこの病院がコロナ対策の病院になっているとか、あるいは患者を受け入れているとか、診察をしているとか、そういう情報を一切教えていただいております。

入ってくる情報は年齢別、あとは自宅療養数とかそんなような数だけでございまして、そういった中で、今般、長生郡市7市町村連名で、県のほうに赴きまして、情報の共有をしてくれないと茂原市としても対応が取れないので、そういうことで、できるだけ速やかに情報の共有をした中で出していただきたいということを申し上げてきたところでもあります。

というのは、やっぱり自宅療養者がかなり増えてきておりますので、公明党さんからも要望が来ておりまして、なかなか食べるものも手に入らない、保健所へ言っても対応してくれない、こんなような話もございましたので、行政として、できるだけ早急に対応したいと、こういう思いで行ったところですが、なかなか教えていただけないというのが今の現実でございます。

協定を結んだ中で、県のほうから情報をくれるという、最終的にはそういうようなことになっておりますけども、今、そういう協定を結ぶ、もう少しといったところですが、その間にも容体が悪くなって激変するような、こういうウイルスでございますので、そうならないように、できるだけ情報を早く出してもらいたいと、こういう話をしたところでもあります。

現在、感染拡大に伴う医療機関の病床逼迫によりまして、感染症患者は、本来の入院ではなく、宿泊療養施設への入所や自宅療養を余儀なくされていると認識しており、憂慮すべき状況と捉えております。先ほど申し上げたとおり、こうしたことを踏まえまして、長生郡市7市町村連名で宿泊療養施設の拡充と臨時医療施設の増設、それから酸素ステーション施設の確保。これは9つの医療圏がありますので、1か所に1つぐらいずつ酸素ステーションを設けてくれないかと、こういう要望と、それから感染者や濃厚接触者等についての速やかな情報共有。先ほど申し上げたとおり、どこの誰それが患者ですよという情報がないものですから、今のところ、対応がなかなかできないというのが現実でございます。こうしたことを9月3日に県知事へ要望したところでもあります。

それから、次に、若年層のワクチン接種が遅れている理由と、ワクチン接種による中長期的な影響を懸念する声に対して、市の見解はとの御質問でございますが、長生郡市においては、感染による重症化リスクが年齢とともに高くなることを踏まえ、上の年代から順次、接種予約の受付を行っており、20代、30代の若年層の予約が8月27日から始まったところでございます。

また、若年層の方にワクチン接種による中長期的な影響を懸念して接種を控える方が多いという報道がございますが、厚生労働省のウェブサイトによりますと、ワクチン接種により、精

子や卵子の遺伝情報への影響はないものとされております。

市といたしましては、ワクチン接種を希望される方に対しまして、接種を推進してまいりたいと考えております。

一説によりますと、遺伝子組換えですので、そういった意味でかなり心配されている親御さん等もいらっしゃると思いますが、今のところ、そういう情報がないということでございますので、唯一コロナに対抗する攻撃の弾といえますか、そういう意味ではワクチンしかございませんので、できるだけ接種を希望される方に推進してまいりたいと思っております。

先ほども申し上げましたけども、受験生でかなり心配されている方がいらっしゃるということもございまして、9月26日の日曜日に、中学3年生を対象に1回目の接種。それから、2回目の接種を10月17日に行うと。これは中学3年生対象でございます。それから、16歳から64歳までの方に関しては10月2日、10月23日。それから、10月3日、24日は12歳から14歳まで。10月9日、10月30日、これは16歳から64歳までということで、集団接種を同時進行でやらせていただくかと思っております。

接種率については、先ほども申し上げたとおり、県内の平均と比べますと、9月6日時点で県が1回目50.8%、2回目が39.8%。茂原市は1回目58.7%、2回目が46.5%。かなり進んできていると思っております。

もう一つちょっと懸念すべき事案があったのは、ワクチンの供給量でございまして、これがなかなか遅れるような話も入ってきていたものですから、若干慎重になったというところでございます。

睦沢さんが集団接種できているというのは、茂原市と比べて圧倒的に人数が少ないと、生徒数も少ないということですので、茂原市としてもどんどんやっていただきたいということで申入れしたところでございます。

私からは以上でございます。

○議長（中山和夫君） 都市建設部長 渡辺修一君。

（都市建設部長 渡辺修一君登壇）

○都市建設部長（渡辺修一君） 都市建設部所管に関わります御質問に御答弁いたします。

最初に、赤目川・乗川の整備についての御質問で、進捗状況の中で、赤目川・乗川の用地買収、工事の概要及び進捗率についての御質問ですが、二級河川赤目川の整備につきましては、全体計画延長7.7kmのうち、用地取得が約92%、河道拡幅約4.2km及びB調節池が完了していると伺っております。現在は、A調節池の掘削工事と、萱場橋上流600m区間の河道拡幅工事が

集中的に進められているところでございます。

次に、準用河川乗川の整備につきましては、全体計画延長1.6kmのうち、用地取得が約63%、河道拡幅はJ R外房線田中下踏切付近の横断部の一部が完了しておりますが、本格的な工事着手には至っていない状況でございます。

次に、今後の取組の中で、赤目川については河川整備以外に付帯する施設の整備について具体的に、乗川については今後どのように整備を進めていくのかとの御質問ですが、二級河川赤目川の整備に付帯する施設といたしまして、橋梁架け替えが12橋のうち6橋、堰の改築が10箇所のうち6箇所がそれぞれ完了していると伺っております。

次に、準用河川乗川につきましては、赤目川改修が乗川合流点まで達していないため、抜本的な改修を進めることは難しいところですが、河川改修計画に基づき、市道1級17号線に架かる吾妻崎橋の架け替えから進めてまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 総務部長 鈴木祐一君。

（総務部長 鈴木祐一君登壇）

○総務部長（鈴木祐一君） 総務部所管に関わります御質問に御答弁申し上げます。

新型コロナウイルス感染症についての中で、災害時の避難所における新型コロナウイルス感染症対策について、市はどのような対策を考えているのかとの御質問でございますが、災害時の避難所における新型コロナウイルス感染症対策につきましては、3密を避けるため、十分な換気を行い、避難者同士の間隔についても配慮するとともに、段ボールパーティションを整備しております。また、各避難所にあるマスクや手指消毒液等を充実させ、衛生面の対策にも努めております。

なお、避難を検討している方へ、避難所が過密状態になることを防ぐために、親戚や友人宅への避難や自宅での安全確保について再度検討していただきたい旨や、避難所における新型コロナウイルス感染症への具体的な行動を市公式ウェブサイトで公表し、周知を図っておるところでございます。以上です。

○議長（中山和夫君） 経済環境部長 飯尾克彦君。

（経済環境部長 飯尾克彦君登壇）

○経済環境部長（飯尾克彦君） 経済環境部所管に関わります御質問に御答弁申し上げます。

人と動物の共生についての中で、初めに地域猫活動の取組についての御質問でございますが、地域猫活動は、飼い主のいない猫に対して、頭数の把握、餌や糞尿の管理、不妊・去勢手術の実施、周辺美化など、地域住民が主体となって適切に管理していく活動で、市はその活動を支

援するものです。市といたしましては、活動の内容や進め方について、市公式ウェブサイト及び令和2年8月の自治会回覧によるチラシの配布を行い、周知を図っているところでございます。

続きまして、犬猫の多頭飼育について、ボランティアとの連携も含めて取組があるのかとの御質問でございますが、多頭飼育者への取組といたしましては、専門的な知識を有する長生保健所と連携し、適切に飼育するよう、訪問等による継続的な行政指導を行っております。また、市広報紙、市公式ウェブサイト、チラシの配布により、多頭飼育の問題を含めた犬猫の正しい飼い方の啓発を行っております。

なお、ボランティアとの連携につきましては、長生保健所を通じ、県の動物愛護推進員や動物愛護ボランティアなどと連携を図っております。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 教育長 内田達也君。

（教育長 内田達也君登壇）

○教育長（内田達也君） 教育関係の御質問に御答弁申し上げます。

初めに、通学路の安全確保について、八街の事故後に、通学路の安全確保のために新たに取組んだことについて伺うとの御質問でございますが、本市におきましては、平成24年度から茂原市通学路交通安全プログラムにより通学路の点検、危険箇所の抽出、関係機関との対策協議、対策の実施を継続的に行い、安全確保に努めております。八街の事故後には、国、県からの点検調査結果についての報告依頼があり、これに対応しております。

次に、廃校跡地の有効活用について、利用されていない学校及び保育施設がどのくらいあるかとの御質問でございますが、現在利用されていない学校及び幼稚園施設は、旧二宮小学校、旧本納小学校、旧中の島幼稚園、旧豊岡幼稚園の4施設でございます。また、利用されていない保育施設は、現在、旧新治保育所1施設となっております。

次に、学校再編審議会について、茂原市学校再編審議会の設置目的と役割についてでございますが、茂原市学校再編審議会は、小中学校の再編等を審議するため、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、条例により設置された附属機関であり、市教育委員会の諮問に応じ、小中学校の統合、廃止等再編に関することなどを調査審議する役割を担っております。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 企画財政部長 麻生新太郎君。

（企画財政部長 麻生新太郎君登壇）

○企画財政部長（麻生新太郎君） 企画財政部所管に関わります御質問に答弁いたします。

利用されていない学校及び保育施設の今後の利活用についてですが、未利用施設の今後につきましては、公募型プロポーザル方式により事業者を選定し、民間による利活用を図ってまいります。公募にあたりましては、周辺地域の実情を考慮しながら条件設定を行うなど、地域活性化に資するよう努めてまいります。以上です。

○議長（中山和夫君） 再質問ありますか。河野英美議員。

○3番（河野英美君） ありがとうございます。まず、赤目川・乗川についての再質問をさせていただきます。赤目川のA調節池の掘削工事が進められているとのことですが、市内の農業者さんから、客土として活用してほしいという要望もいただいております。A調節池の掘削道の処分及び市を含めたほかの工事への流用をどのように行っているのかを伺います。

○議長（中山和夫君） 都市建設部長 渡辺修一君。

○都市建設部長（渡辺修一君） 県が発注する工事間での利用を図るとともに、地元土地改良区を通じて、農地の客土にも活用していると伺っております。

○議長（中山和夫君） 河野英美議員。

○3番（河野英美君） 市が県の窓口となって、スムーズに活用が進むようお願いいたします。

赤目川の上総橋から西側の、これは市の管轄と伺っておりますが、排水路においても、少し強い雨が降りますと、道路と田んぼが冠水して、川との境目が分からないぐらいの状況になります。赤目川の改修が進めば、それも改善されると思います。

そこで、赤目川は令和15年まで工事が延伸されたとのことですが、工事の完了の見通しについて伺います。

○議長（中山和夫君） 都市建設部長 渡辺修一君。

○都市建設部長（渡辺修一君） 令和15年度の工事完了に向け、取り組んでいくと伺っております。

○議長（中山和夫君） さらに質問ありますか。河野英美議員。

○3番（河野英美君） コロナ禍で、地域の方々へ川の整備状況などの説明をするのが難しいところではございますが、住民の皆様への周知についてはどのように考えていらっしゃるのかを伺います。

○議長（中山和夫君） 都市建設部長 渡辺修一君。

○都市建設部長（渡辺修一君） 赤目川につきましては、毎年、地元土地改良区や関係自治会

等で組織される赤目川改修促進期成同盟会において整備状況の説明を行っているところでございます。また、乗川につきましては、工事着手に合わせ、地元住民への周知を行ってまいりたいと考えております。

○議長（中山和夫君） 河野英美議員。

○3番（河野英美君） ありがとうございます。では、乗川について、橋の架け替えから進めるとのことですが、工事の完成はいつ頃になる見通しでしょうか。

○議長（中山和夫君） 都市建設部長 渡辺修一君。

○都市建設部長（渡辺修一君） 吾妻崎橋の架け替え後、上流に向けて河道拡幅を進めてまいりたいと考えておりますが、現時点において、工事の完成見通しをお示すことはできない状況でございます。

○議長（中山和夫君） 河野英美議員。

○3番（河野英美君） 先日、赤目川の工事の視察をいたしました。一日も早い川の整備の完了は、地域の皆様の本当に切実な願いでございます。雨の後、川からの水が田んぼにたまり、御高齢の御両親が体に鞭を打って、水はけが悪く、ぬかるんで機械も入れない田んぼで作業をしている、田んぼが乾かず稲刈りができないというようなお話も伺っております。その一方で、なぜ中学校付近の道が冠水するのかであるとか、本納小学校が移転するのだから、新校舎の完成とともに川の整備も終わると思っていたなどの御意見も伺っております。

住民の皆様の御理解が、行政側が思うほど浸透していないのかなという印象がありますので、ぜひ一部の方々だけではなく、多くの皆様に分かりやすい説明をしていただきたく要望いたします。

続いて、新型コロナウイルスの再質問をさせていただきます。宿泊型療養施設の拡充と臨時医療施設の増設、酸素ステーション施設の確保について要望したとのことですが、具体的な場所や計画があるのかを伺います。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 千葉県では、宿泊療養施設の拡充と酸素ステーションの設置については予定があるとのことでしたけれども、具体的な場所までは示されておられません。また、臨時医療施設の増設につきましては、一定の経験を有する看護師等の医療従事者確保に課題があるとのことでした。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 河野英美議員。

○3番（河野英美君） ありがとうございます。千葉県では、これらの施設は、いずれも軽症

者の方が対象の施設だというふうに私は認識しております。もちろんこういった施設も重要ではございますが、地域医療の中核を担う公立病院での中等症以上の患者さんの受入れをぜひとも要望いたします。人手不足や動線の確保など、難しいことはたくさんあると思いますけれども、ぜひよろしくお願いを申し上げます。

続いて、災害時の避難所についてですが、在宅療養者や濃厚接触者が避難する場合には、サージカルマスクの用意であるとか、対応を行う人材の確保など、地域の病院や診療所に対し、行政との連携が取れるような事前の準備も必要だと考えます。そこで、避難所対応職員の感染症対策について、どのような対策をするのかを伺います。

○議長（中山和夫君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） 避難所対応職員の新型コロナウイルス感染症対策につきましては、マスク、フェイスシールド、ニトリル手袋等を着用し、アルコールなどの消毒を行いながら対応することとしております。以上です。

○議長（中山和夫君） さらに質問ありますか。河野英美議員。

○3番（河野英美君） 十分な換気を行うとありましたけれども、換気設備がない避難所の換気対策について伺います。

○議長（中山和夫君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） 換気設備のない避難所につきましては、大型扇風機等の使用や、窓を開ける換気対策を考えております。

○議長（中山和夫君） 河野英美議員。

○3番（河野英美君） 換気には、2方向の窓やドアを開け、空気の流れをつくる必要がございますが、暴風により窓が開けられない場合などには、空気清浄機を設置する考えがあるのか伺います。

○議長（中山和夫君） 総務部長 鈴木祐一君。

○総務部長（鈴木祐一君） 空気清浄機の設置につきましては、有効な手段と考えられますが、風向きを考慮することで窓の調整等は可能と考えており、現在のところ、設置については考えておりません。以上です。

○議長（中山和夫君） 河野英美議員。

○3番（河野英美君） 冬季でも換気というのは常時必要でございます。湿度や温度を保つために、十分に窓が開けられない場合にも空気清浄機は有効であると思いますので、ぜひ設置の方向で考えていただきたいと思います。

次に、先ほど市長のほうからお答えがありましたので、簡単でよろしいかと思うんですが、12歳から18歳までのワクチン接種の予約開始はいつ頃を予定しているか伺います。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 12歳から18歳までの方につきましては、基礎疾患のある方については9月10日から、それ以外の方につきましては9月13日から接種予約の受付を開始する予定でございます。以上です。

○議長（中山和夫君） 河野英美議員。

○3番（河野英美君） ありがとうございます。それでは、こちらも市長のほうからお話がありましたけれども、集団接種は再度行う予定でございますか。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 若年層を中心に、9月26日から茂原市保健センターを会場として集団接種を行う予定でございます。以上です。

○議長（中山和夫君） さらに質問ありますか。河野英美議員。

○3番（河野英美君） また、ワクチンについて、中長期的な影響では、遺伝情報への影響はないとしておりますが、そのほかの健康への副作用はないのか伺います。

○議長（中山和夫君） 市民部長 田中正人君。

○市民部長（田中正人君） 現時点では、その他の中長期的な副作用については厚生労働省等からも示されておられませんので、今後の研究結果等を注視してまいりたいと考えております。以上です。

○議長（中山和夫君） 河野英美議員。

○3番（河野英美君） 引き続きの注視をよろしく願いいたします。

福島県の相馬市では、若年層のワクチン接種にあたり、先ほど市長が、いじめというようなことがございました、お話がありましたけれども、同調圧力を懸念して、同級生同士で誰が接種を受けたか分からないような仕組みをつくったということでございます。ワクチン接種によるハラスメントがないよう、茂原市でも慎重に行っていただきたいと思います。

そして、新型コロナウイルスの猛威は、大規模災害と同じ有事だと考えます。ワクチン接種や新型コロナウイルス関連の補助金の手続等で職員の皆さんの仕事量が増大しているとも伺っております。どうか執行部の皆様が、職員の心身のストレスや生活への影響に御配慮をお願いしたいと思います。

続いて、地域猫についての再質問をさせていただきます。茂原市では、地域猫活動に取り組

んでいる地域があるのかを伺います。

○議長（中山和夫君） 経済環境部長 飯尾克彦君。

○経済環境部長（飯尾克彦君） 地域猫活動に取り組んでいる事例につきましては、現在、市では把握しておりません。以上です。

○議長（中山和夫君） 河野英美議員。

○3番（河野英美君） 地域猫活動の周知はしているが、実際の事例の把握はされていないということですが、地域の基準というものはどういったものでございますか。

○議長（中山和夫君） 経済環境部長 飯尾克彦君。

○経済環境部長（飯尾克彦君） 地域に関する明確な基準はございませんが、自治会や町内会などが基準になると考えております。

○議長（中山和夫君） 河野英美議員。

○3番（河野英美君） 地域猫活動は、何年もかけて根気よく取り組まなければならない活動です。1匹、2匹から始まり、あっという間に数十匹ということがあります。猫を嫌いな人も好きな人もおりますけれども、どんどん増えてほしいと思う人はいないと思います。嫌いな人にこそ御理解をしていただくことが、活動をスムーズに進めることだと考えております。

次に、公益財団法人どうぶつ基金のさくらねこ無料不妊手術事業の活用について伺います。

○議長（中山和夫君） 経済環境部長 飯尾克彦君。

○経済環境部長（飯尾克彦君） どうぶつ基金が実施している無料不妊手術事業につきましては、本市において、これまで1件活用した実績がございます。具体的には、猫を多頭飼育していた飼い主に対して、このまま放置することは、猫の飼育環境の悪化や糞尿被害等、周辺に悪影響が広がる恐れがあり、早急な対応が必要だったため、活用したものです。

しかしながら、一方で、猫の適正な飼育の責任は飼い主にあることから、無料不妊手術事業の活用にあたっては、専門的な知識を有する長生保健所と協議の上、飼い主の経済状況など、総合的な判断が必要であると考えております。以上です。

○議長（中山和夫君） 河野英美議員。

○3番（河野英美君） 7月にさくらねこ無料不妊手術の視察に、横芝光町に行ってまいりました。横芝光町まで御宿や鴨川からもボランティアが野良猫を地域猫にするために連れてきておりました。

どうぶつ基金は、犬や猫の不妊手術奨励事業や動物愛護思想の普及啓発事業をされている組織でございます。さくらねこというのは、手術済みの目印として耳先を桜の花びらの形にカッ

トした猫のことをございます。基金では、個人や団体だけではなく、行政による事業推進のための助成金制度が実施されています。千葉県では11の地方公共団体が登録をされています。近隣ですと長柄町でございます。ぜひ茂原市でも制度の活用を要望いたしたいと思ひます。

それでは、市が独自で地域猫への不妊手術の費用を助成するお考えがあるのかを伺ひます。

○議長（中山和夫君） 経済環境部長 飯尾克彦君。

○経済環境部長（飯尾克彦君） 地域猫活動に対する具体的な相談や要望は現在のところございませんので、地域猫に関する予算計上はしておりませんが、実施する場合には、県の制度を活用した市の助成制度を検討してまいりたいと考えております。

○議長（中山和夫君） 河野英美議員。

○3番（河野英美君） ありがとうございます。

それぞれ条件や金額の違いはあるものの、市原市、山武市、御宿町で助成を行っておりますが、近隣の市町村ではまだ助成を行っているところはございません。今の御答弁で、茂原市でも検討して下さるとのことをございますので、近隣市町村に先駆けて、ぜひ導入をよろしくお願ひいたします。

次に、多頭飼育のことをございますが、市では多頭飼育をどのように把握したのか伺ひます。

○議長（中山和夫君） 経済環境部長 飯尾克彦君。

○経済環境部長（飯尾克彦君） 多頭飼育の把握は、近隣住民からの通報や相談によるものございます。

○議長（中山和夫君） 河野英美議員。

○3番（河野英美君） 犬や猫を10頭以上飼う場合、届出が必要とのことございますが、届出による指導はしていらっしやらないのかを伺ひます。

○議長（中山和夫君） 経済環境部長 飯尾克彦君。

○経済環境部長（飯尾克彦君） 犬猫を10頭以上飼う場合には、長生保健所へ届出が必要となっており、市への手続はございません。なお、長生保健所では、届出の際、飼育崩壊の未然防止や近隣住民への配慮など、適切な飼育が行われるよう指導していると伺っております。

市といたしましては、多頭飼育における具体的な問題が発生した場合、長生保健所と情報共有や同行訪問など、日頃から綿密に連携を図り、対応しているところございます。以上です。

○議長（中山和夫君） さらに質問ありますか。河野英美議員。

○3番（河野英美君） では、直近3年間で行政指導をした件数を伺ひます。

○議長（中山和夫君） 経済環境部長 飯尾克彦君。

○経済環境部長（飯尾克彦君） 直近3年間の指導件数でございますが、平成30年度が猫8件、犬1件の計9件。令和元年度が猫7件、犬1件の計8件。令和2年度が猫11件、犬1件の計12件となっております。

○議長（中山和夫君） 河野英美議員。

○3番（河野英美君） 行政指導の結果、適切な飼育につながったのか。また、事後確認は行っているのかを伺います。

○議長（中山和夫君） 経済環境部長 飯尾克彦君。

○経済環境部長（飯尾克彦君） 無計画な餌やりの是正や不妊手術の実施など、指導により改善に向かっている事例もございますが、再度の苦情や行為者本人からの相談に応じて複数回訪問し、指導を行っております。

○議長（中山和夫君） 河野英美議員。

○3番（河野英美君） ありがとうございます。では、ボランティアの連携について具体的に伺います。

○議長（中山和夫君） 経済環境部長 飯尾克彦君。

○経済環境部長（飯尾克彦君） ボランティアとの具体的な連携につきましては、県が実施している譲渡会の紹介や譲渡先のあっせん、また、相談者宅への同行訪問などを行っております。

○議長（中山和夫君） 河野英美議員。

○3番（河野英美君） ボランティアには、体力や心身をすり減らし活動していらっしゃる方もいらっしゃいます。ボランティアに過度の負担がかからないよう、信頼関係を築き、取り組んでいただくことを望みます。そして、引き続き長生保健所や関係者との連携を密に対応していただくこと、また、どうぶつ基金には、行政枠のみで多頭飼育崩壊現場への救済として不妊手術の支援もありますので、ぜひ御検討をお願いしたいと思います。

次に、通学路の危険箇所の抽出について、保護者からの意見が反映されているのかを伺います。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 危険箇所の抽出につきましては、保護者の方や地域の方の意見も取り入れながら行っております。

○議長（中山和夫君） 河野英美議員。

○3番（河野英美君） 保護者の意見を取り入れながらということでございますが、具体的などのような形で保護者から意見を聞いたのか伺います。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 学校ごとに開催される安全対策に関わる会議や、交通指導の際に直接御意見をいただいております。

○議長（中山和夫君） 河野英美議員。

○3番（河野英美君） 私が市内の何校かの保護者に伺ったところ、事故後に改めて意見を聞かれたことはなかったということでした。特に、本納小は9月1日より移転して、新しい通学路になり、私も保護者の方から通学路についての心配の御意見を多数いただいております。本納小だけでなく、学校再編における各学校の意見交換会でも、通学路についての不安がたくさん出ておりました。早野中と南中の再編の意見交換会でも通学路への心配の声が多く、通学路の整備が終わるまでは統合しないでほしいというような御意見も出ておりました。

そのように、小学校だけでなく中学校でも不安の声が出ておりますので、安全な教育環境の確保のために関係機関と協力し、また、学校、家庭、地域の声をよく聞いていただいて、早急の対応をしていただくことを要望いたします。

続いて、学校の廃校跡地について質問いたします。事業者の選定方法は公募型プロポーザル方式のみなのかを伺います。

○議長（中山和夫君） 企画財政部長 麻生新太郎君。

○企画財政部長（麻生新太郎君） 学校及び保育施設など、地域住民の方々が多く利用されてきた施設で、今後の利活用にあたり、周辺への配慮が必要なものについては公募型プロポーザル方式で選定してまいります。また、それ以外の施設では、第一段階で企画提案書の審査を行い、第二段階で審査を通過した事業者による価格競争入札を行う、二段階一般競争入札を考えております。

○議長（中山和夫君） さらに質問ありますか。河野英美議員。

○3番（河野英美君） 全国では、民間企業や官民協働の施設など、様々な形で廃校が活用されております。地域の雇用や経済発展に関わることでもございますし、売却か賃貸かによっても活用の方法は違ってくると思います。防災拠点として残してほしいという意見も伺っておりますので、住民の方々の声を取り入れ、地域の発展につながる利活用をお願いしたいと思っております。

次に、学校再編審議会についての再質問をいたします。審議会の委員として、地域からの選出は行わないのかを伺います。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 審議会の委員につきましては、茂原市学校再編審議会条例に基づき、学識経験者や自治会関係者、教育関係者などで構成されております。審議会の委員には、全市的な視点と公正・中立な立場から審議いただくため、各種団体からの推薦などにより選出をしており、地域を特定した選出は行っておりません。

○議長（中山和夫君） 河野英美議員。

○3番（河野英美君） 住民の意見交換会では、審議会の委員の選出が公平・中立ではないという御意見もございました。何をもちて公平・中立というのか分かりませんが、各種団体からの推薦ということでしたら、団体の枠を広げることや、公募ということも考えていただきたいと思っております。

次に、各地区の意見交換会については、学校再編審議会に反映されているのか伺います。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 意見交換会でいただいたご意見等につきましては、議事録を事前に審議会委員に送付するとともに、審議会の中でも概要を報告しております。御意見を踏まえて審議をした結果、当初の再編案が一部見直しされるなど、意見交換会の御意見等は反映されているものと考えております。なお、審議会委員にも、任意ではありますが、住民意見交換会に御出席をいただいております。

○議長（中山和夫君） 河野英美議員。

○3番（河野英美君） 今、議事録ということがございましたが、議事録の取りまとめ方法について伺います。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 議事録につきましては、ICレコーダーで録音の上、職員が作成をしております。議事録は、全ての質疑等を記載したものと、主な内容をまとめた概要版の2種類を作成しております。審議会委員には2つの議事録を事前に送付し、議事の概要につきましては会議当日に説明をしております。

○議長（中山和夫君） 河野英美議員。

○3番（河野英美君） 私がいただいた議事録が2種類のうちのどちらかは今、分かりかねますけれども、これまでの意見交換会では、各地区の議事録をちゃんと伝えてほしい、全て見せてほしいという御意見がありました。

私は5月に行われた全ての地区の意見交換会に参加しております。その上で議事録を読みますと、中には重要性が高いと思われる市と住民の方とのやり取りが5分以上にわたり割愛

されている場面がございました。これでは、地域の皆様が、市に対して不信感を抱いても仕方がないと思います。

そこで、地域の声を反映させるためには、審議会への出席を地域関係者に求めることが必要であると考えられますが、市の見解を伺います。

○議長（中山和夫君） 教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 先ほど申し上げましたとおり、審議会は公正・中立な立場で審議することが求められております。その中で、当初案の一部見直しが行われるなど、地域住民との意見交換会での御意見については反映されているものと考えております。

○議長（中山和夫君） 河野英美議員。

○3番（河野英美君） 私は審議会の傍聴もしておりますが、先ほども申し上げましたように、議事録に書かれていないことがあるとするならば、意見交換会を行う意味もなくなってしまうのではないかなと考えます。意見交換会には、審議会の委員の方の出席も確かにございますが、大抵2名か3名でございます。そうすると、議事録の重要性というのは非常に高いものとなるわけでございます。

審議会の傍聴してまいしても、委員の方々の御意見や認識がかみ合っていないなど感じることもございます。そして、文字で書かれたものを読んでも、現場の空気感は伝わっていないと感じることがございます。意見交換会に審議会の委員の方が多く出席されないのであれば、再編当該地域の関係者が審議会に参加して、様々な生の声を伝えることが必要だと考えます。

茂原市学校再編審議会条例には、「会長は、必要があると認めるときは、審議会の会議に委員以外の者の出席を求め、その意見若しくは説明を聴き、又はこれらの者から資料の提出を求めることができる。」とあります。

各学校の再編には様々な思いや御意見があります。しかし、意見は違っても、誰もが共通して思っていることは、子どもたちの健やかな成長と地域の発展だと思えます。より良い環境の中で子どもたちを育てたい、これは行政も住民も皆同じ気持ちでございます。誰も争いたい人はおりません。どうか市民の皆さんの思いに寄り添って、これからの学校再編を進めていただきたいと思います。

最後に、私が住民意見交換会でとても印象に残った住民の方からの質問がございました。当局の皆さんから、そのときにはお答えがありませんでしたので、改めて質問をさせていただきます。通告はしておりませんので、答えていただければ幸いです。ぜひよろしく願いいたします。こういった質問でございました。「再編問題、新校舎建設にあたって、何年かしたら、い

い仕事だったなって本当に言えますか。自信を持って言えますか。本当のことを聞きたいです」と、こういった質問がございました。ぜひお答えをお願いいたします。

○議長（中山和夫君） 答弁を求めます。教育部長 中村一之君。

○教育部長（中村一之君） 今、新校舎建設についての御質問でございますが、本納小学校については、9月1日から新しい校舎で今、授業を開始しております。現在のところ、子どもたちの評判は非常にいいということを経長のほうから聞いておりますし、今後、小中連携を図りながら、子どもたちが本当にここに通ってよかったなというような学校運営をしていきたいというふうに考えております。以上でございます。

○議長（中山和夫君） 河野議員に申し上げます。残りが3分になっていきますので、よろしくお祈りします。河野英美議員。

○3番（河野英美君） これからまだ新治・豊岡の統合であるとか、早野・南中の統合であるとか、再編は茂原市にとって大きな課題であると思います。ぜひ、どうか住民の皆様の思いに寄り添って、共にいい学校を作っていただけるよう切に要望をいたして、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（中山和夫君） 以上で、河野英美議員の一般質問を終わります。

これをもって、本日の議事日程は終了しました。

明日は午前10時から本会議を開き、一般質問を続行します。

本日は以上で散会します。御苦労さまでした。

午後4時24分 散会

————— ☆ ————— ☆ —————

○本日の会議要綱

1. 一般質問

1. 山田広宣議員の一般質問並びに当局の答弁

- ① 地域防災力の向上について
- ② 終活について

2. 高山佳久議員の一般質問並びに当局の答弁

- ① コロナ禍における避難対策について
- ② 7月3日・8月8日の被害、避難指示、内水氾濫対策について
- ③ 通学路の安全について
- ④ GIGAスクールについて

- ⑤ 教職員の働き方改革について
- ⑥ 学校等における新型コロナウイルス感染症予防対策について

3. 工藤孝弘議員の一般質問並びに当局の答弁

- ① 災害に強いまちづくりについて
- ② 生活環境の整備について
- ③ デジタル技術の導入について
- ④ 富士見公園のあり方について

4. 横堀喜一郎議員の一般質問並びに当局の答弁

- ① コロナ対策について
- ② 水害対策について
- ③ 交通安全対策について

5. 河野英美議員の一般質問並びに当局の答弁

- ① 赤目川・乗川の整備について
- ② 新型コロナウイルス感染症について
- ③ 人と動物の共生について
- ④ 教育環境について

○出席議員

議長 中山和夫君

副議長 田畑毅君

1番	御園敏之君	2番	工藤孝弘君
3番	河野英美君	4番	横堀喜一郎君
5番	河野健市君	6番	高山佳久君
7番	西ヶ谷正士君	8番	石毛隆夫君
9番	岡沢与志隆君	10番	向後研二君
11番	杉浦康一君	12番	小久保ともこ君
14番	山田広宣君	15番	金坂道人君
17番	細谷菜穂子君	18番	鈴木敏文君
19番	平ゆき子君	20番	ますだよしお君
21番	三橋弘明君	22番	常泉健一君

☆

☆

○欠席議員

なし

☆

☆

○出席説明員

市長	田中豊彦君	副市長	豊田正斗君
教育長	内田達也君	理事	山田隆二君
総務部長	鈴木祐一君	企画財政部長	麻生新太郎君
市民部長	田中正人君	福祉部長	斎藤洋士君
経済環境部長	飯尾克彦君	都市建設部長	渡辺修一君
教育部長	中村一之君	総務部次長 (総務課長事務取扱)	渡邊正統君
企画財政部次長 (企画政策課長事務取扱)	木島成浩君	市民部次長 (生活課長事務取扱)	宮本弘美君
福祉部次長 (社会福祉課長事務取扱)	平井仁君	経済環境部次長 (商工観光課長事務取扱)	山本茂樹君
都市建設部次長 (土木建設課長事務取扱)	白井高君	都市建設部次長 (建築課長事務取扱)	高橋啓一君
教育部次長 (教育総務課長事務取扱)	佐久間尉介君	職員課長	田中秀一君
財政課長	中田喜一郎君		

————— ☆ ————— ☆ —————

○出席事務局職員

事務局長	関屋典
局長補佐	鶴岡隆之
議事係長	金坂賢